古今類句

若菜下
拾遺雑春
新古雑上
金葉雑
月清集上
拾玉集七
続後拾雑下
新古雑上
拾玉集二
続拾雑下
続後選雑
月清集上
拾遺雑上
新拾雑三
続古雑

なつのまのあつさのあまりうちふせばいつしかそでにかぜぞたちぬる
なつのまのあつさのあまりうちふせばいつしかそでにかぜぞたちぬる
なつのまのあつさのあまりうちふせばいつしかそでにかぜぞたちぬる
なつのまのあつさのあまりうちふせばいつしかそでにかぜぞたちぬる
なつのまのあつさのあまりうちふせばいつしかそでにかぜぞたちぬる
なつのまのあつさのあまりうちふせばいつしかそでにかぜぞたちぬる
なつのまのあつさのあまりうちふせばいつしかそでにかぜぞたちぬる
なつのまのあつさのあまりうちふせばいつしかそでにかぜぞたちぬる
なつのまのあつさのあまりうちふせばいつしかそでにかぜぞたちぬる
なつのまのあつさのあまりうちふせばいつしかそでにかぜぞたちぬる
なつのまのあつさのあまりうちふせばいつしかそでにかぜぞたちぬる
なつのまのあつさのあまりうちふせばいつしかそでにかぜぞたちぬる
なつのまのあつさのあまりうちふせばいつしかそでにかぜぞたちぬる
なつのまのあつさのあまりうちふせばいつしかそでにかぜぞたちぬる

大和物語 いつとなくかはるをみてもうたかたの
後拾遺冬 うら河のそこにまでもあるものを
後拾遺冬 ふけてもまた絶えぬ日影
後古今雑傷 消ぬるものなしと思ふ
拾遺哀一 海もあさしもなりぬ我身を
同哀三 冬ごもりそれもそれとも月をかれ沙く
拾遺哀上 君の代を幾世とうそぶくも
拾玉集一 秋の月さえ松まのあらし風
新古雑秋 給ふまじ神よりほかの
後古秋下 立田姫もしれねさをのしかの
山家集下 雲雁なきわたるなりの
後拾哀上 是ひとりかはらぬ秋のよの
後古雑下 さだめなき人の心を
後撰雑中 その夜の月のうつりの
後拾遺哀 苔をきてこしの
拾玉集三 海原もかれ行く秋の
金葉秋 つるぐ吹風にまかせぬ
後拾遺哀上 君のみやちよにかぎる

山家集上 そのつゆをもれをよその
新後拾遺 つゆもやどさぬ神の杜哉
後古今哀 うき中の杜をそめなしひとを
後古雑下 ものゝそれをかこつ
後古雑上 きてもとれの宮ゐ
同哀又 枯そそめ絶ぬ海くも
新拾遺 さゝぬともかひあらん世中に
後拾遺哀 八重葎さしてとまれる
古今哀又 あひてをしきは
拾遺哀草 あまり川ぬるゝ秋雲
拾遺雑下 みの里門さゝぬ
新古哀一 しきあまりぬるゝ袖
後二条雑 世中のうきにつけても
山家集下 ちまき結ひ
新古雑中 狩ぬ世ならましかの
後拾遺雑 かひのをさゝ
同雑二 むしろをしかとも

拾遺集一 [illegible] 釈[illegible]法師
新千雑下 [illegible] 源[illegible]
新續古雑中 [illegible] 正三位知家
新勅羇旅 [illegible] [illegible]法師
風雅旅 [illegible] 大内[illegible]
新千恋二 [illegible]
山家集上 [illegible]
新拾恋下 [illegible] 御製
風雅秋上 秋の[illegible] 従二位家隆
新千恋三 [illegible] 前大納言[illegible]
新拾恋二 [illegible] 小侍従
山家集下 [illegible]
続撰恋一 [illegible]
風雅雑下 七十のとしまで[illegible]
新千雑中 [illegible]
新拾雑上 [illegible]
新続恋哀 [illegible] 心海上人
大和物語 [illegible]

新続雑中 [illegible] 殷富門院大輔
新続古恋四 [illegible] 徽安門院[illegible]
拾遺恋五 [illegible]
続千羇旅 [illegible]
続拾恋四 [illegible]
拾玉集一 [illegible]
続拾雑下 [illegible] 従二位[illegible]
続後撰恋四 [illegible] 前関白[illegible]
新千雑上 [illegible] 二条[illegible]
風雅秋中 心なき秋の月[illegible] 選子内親王
新古雑上 [illegible] 源[illegible]
古今夏 [illegible]
同恋五 秋の[illegible] つらゆき
拾遺雑上 世中と[illegible] [illegible]法[illegible]
續古冬 山の[illegible] [illegible]
新拾雑中 [illegible] 壬生忠岑
拾玉集六 [illegible] 山田法師
拾遺恋上 [illegible]

新勅雑一　桂の子をもちてこそ月みなれ　松の花千とうさけるこの枝も
新拾遺賀　なをあらそふ春のうぐひす　なをもあらねとをしむ花かな
続拾雑中　なをもあるへき園のうき蹤　なをもつもりてそとまる枯葉は
古今雑下　なをさて志賀の花その白ゆふ　なをうち祓ふ名こそ残れる
新勅雑一　なをみてのかみやはたえぬ　なをもろともに思ふ心あり
新千首　なをもろともにこそ思ふまゝ　なをもろともにこそ思ふまゝ
新拾雑上　なをもろともにこそ思ふまゝ　なをもろともにこそ思ふまゝ
続拾春上　露ふみたゝもあり世の憂きを　木枯よ吹きもとめぬ山ならん
続拾冬　なをもろともにこそ思ふまゝ　なをもろともにこそ思ふまゝ
拾玉集一　なをもろともにこそ思ふまゝ　なをもろともにこそ思ふまゝ
続拾雑上　なをもろともにこそ思ふまゝ　なをもろともにこそ思ふまゝ
小倉集下　なをもろともにこそ思ふまゝ　なをもろともにこそ思ふまゝ
同　なをもろともにこそ思ふまゝ　なをもろともにこそ思ふまゝ
古今雑下　なをもろともにこそ思ふまゝ　なをもろともにこそ思ふまゝ
拾遺雑賀　なをもろともにこそ思ふまゝ　なをもろともにこそ思ふまゝ
続古雑中　なをもろともにこそ思ふまゝ　なをもろともにこそ思ふまゝ
続千雑中　なをもろともにこそ思ふまゝ　なをもろともにこそ思ふまゝ
金葉雑下　なをもろともにこそ思ふまゝ　なをもろともにこそ思ふまゝ

壬生二品上　あをそらもよもやくもらぬ春霞　世衛門
続古雑中　我宿の花の雪ふる夕暮は　春住
続拾雑中　ふりつもる老の坂道踏分て　大中臣能宣朝臣
同　古今雑下　いつしかと花の雪ふる夕暮は　春住
拾遺雑賀　木枯よ吹きもとめぬ山ならん　紫式部
続古雑中　なをもろともにこそ思ふまゝ　中務
続千雑中　なをもろともにこそ思ふまゝ　平時直
金葉雑下　なをもろともにこそ思ふまゝ　皇后宮美濃

あをそらもよもやくもらぬ春霞　世衛門
我宿の花の雪ふる夕暮は　春住
ふりつもる老の坂道踏分て　大中臣能宣朝臣
同　古今雑下　いつしかと花の雪ふる夕暮は　春住
拾遺雑賀　木枯よ吹きもとめぬ山ならん　紫式部
続古雑中　なをもろともにこそ思ふまゝ　中務
続千雑中　なをもろともにこそ思ふまゝ　平時直
金葉雑下　なをもろともにこそ思ふまゝ　皇后宮美濃

新古今冬　立田川　落ち葉こそ水上なれ　津守国夏
長秋詠藻　雲の波　木の葉に埋む　谷の水
続後拾遺　あらぬ色も　ありけるものを　白河の
新拾遺冬　思ひきや　かくも染めじと　紅葉を
続後撰　春ごとの　花の盛りは　思ひ寝の
新古今春　夢にみえつる　面影を　かたみとそ
続古今　これなくは　なぐさめかねつ　ながめつる
同　三
新葉　春ごとに　みもとの雪を　吹きかへす
新古　霞ぞ　春の　あけぼのの　空
新後撰　何ぞ　雑下
玉葉　雑二
風雅　名一
同
玉葉　恋四
新葉　春二
新勅　名所

続後撰　雑中　かぞふれば　命ながさも　ありそうみの
新後拾　春三　あふさかの　関の清水に　ぬれて
同　恋四
河　花　上
大和物語　春ごとに　花の盛りは　ありなめど
新後撰　雑中　飽かぬ色香は　いつもかはらず
続後撰　恋一　思ひきや　人の心の　あさぢふに
新古　秋上　秋風の　吹くにつけても　山里は
拾遺　恋上　天降りつく　神のしるしも　なきものを
続後撰　恋上　うたたねの　夢路ばかりを　通ひ路に
拾玉集一　恋せじと　みそぎてしかど　黒髪の
金葉　雑上　かきやりし　その黒髪の　すぢごとに
拾遺　恋四　もの思へば　沢の蛍も　我が身より
続後撰　雑上　旧里は　荒れにけりとも　告げこせよ
風雅　秋上　霧深き　小野の篠原　分け入りて
続後撰　恋下　君ならで　誰にか見せむ　黒髪の
玉葉　雑一　わくらばに　問ふ人あらば　須磨の浦に
新後撰　雑上　八重葎　茂れる宿の　さびしきに

津守国夏　神祇伯顕仲卿男　如国法師　花山院師賢卿男　本宰武重　三条公忠卿孫　小野少将　久良公　延政門院雑仕　伊賀局　仮見院宮　花山院師賢卿男　入道二品親王

古今雑下　神無月時雨ふりけるをみて　よみ人しらず
新勅撰　神無月ふりみそめてもわたるかな　時雨に
拾遺愚草　もりとそこもるあさぢふ
続拾遺　もりとそこもるあさぢふ
続撰秋中　まつむしのこゑをも聞かな
壬生二品　深き夜のつきもけやけき秋なれ
古今雑上　たちわかれなほ夜をこめて
新葉集　ふるさとの
続後撰冬　きぬ〳〵なほ袖のまつ山
続拾遺春傷　たちわかれなほ夜をこめて
続古雑上　世中はつくづくつくかなをを
拾玉集古　たちのぼりまくまきのうらに
新古秋下　おほつかなみやまの雲の
千載雑上　独のそ月をあかしの秋の夜は
拾玉集古　ゆくえもそうつせ雲のうらの
新続古今　みるめ刈あまの袖のうらかぜ
古今雑上　あふさかの関水にかげみえしより
続後撰　世中はつくづくつくかなをを
拾遺愚草　たちのぼりまくまきのうらに
新古秋下　おほつかなみやまの雲の
千載雑上　独のそ月をあかしの秋の夜は
拾玉集古　ゆくえもそうつせ雲のうらの
新続古今　みるめ刈あまの袖のうらかぜ
古今雑上　あふさかの関水にかげみえしより
続後撰　世中はつくづくつくかなをを
拾遺愚草　たちのぼりまくまきのうらに
新古秋下　おほつかなみやまの雲の
千載雑上　独のそ月をあかしの秋の夜は
拾玉集古　ゆくえもそうつせ雲のうらの
新続古今　みるめ刈あまの袖のうらかぜ
古今雑上　あふさかの関水にかげみえしより
続後撰　世中はつくづくつくかなをを
拾遺愚草　たちのぼりまくまきのうらに
新古秋下　おほつかなみやまの雲の
千載雑上　独のそ月をあかしの秋の夜は
拾玉集古　ゆくえもそうつせ雲のうらの
新続古今　みるめ刈あまの袖のうらかぜ
古今雑上　あふさかの関水にかげみえしより
続後撰　世中はつくづくつくかなをを
拾遺愚草　たちのぼりまくまきのうらに
新古秋下　おほつかなみやまの雲の
千載雑上　独のそ月をあかしの秋の夜は
拾玉集古　ゆくえもそうつせ雲のうらの
新続古今　みるめ刈あまの袖のうらかぜ
古今雑上　あふさかの関水にかげみえしより
続後撰　世中はつくづくつくかなをを
拾遺愚草　たちのぼりまくまきのうらに
新古秋下　おほつかなみやまの雲の
千載雑上　独のそ月をあかしの秋の夜は
拾玉集古　ゆくえもそうつせ雲のうらの
新続古今　みるめ刈あまの袖のうらかぜ
古今雑上　あふさかの関水にかげみえしより
続後撰　世中はつくづくつくかなをを
拾遺愚草　たちのぼりまくまきのうらに
新古秋下　おほつかなみやまの雲の
千載雑上　独のそ月をあかしの秋の夜は
拾玉集古　ゆくえもそうつせ雲のうらの
新続古今　みるめ刈あまの袖のうらかぜ
古今雑上　あふさかの関水にかげみえしより
続後撰　世中はつくづくつくかなをを
拾遺愚草　たちのぼりまくまきのうらに
新古秋下　おほつかなみやまの雲の
千載雑上　独のそ月をあかしの秋の夜は
拾玉集古　ゆくえもそうつせ雲のうらの
新続古今　みるめ刈あまの袖のうらかぜ
古今雑上　あふさかの関水にかげみえしより
続後撰　世中はつくづくつくかなをを
拾遺愚草　たちのぼりまくまきのうらに
新古秋下　おほつかなみやまの雲の
千載雑上　独のそ月をあかしの秋の夜は
拾玉集古　ゆくえもそうつせ雲のうらの
新続古今　みるめ刈あまの袖のうらかぜ
古今雑上　あふさかの関水にかげみえしより
続後撰　世中はつくづくつくかなをを
拾遺愚草　たちのぼりまくまきのうらに
新古秋下　おほつかなみやまの雲の
千載雑上　独のそ月をあかしの秋の夜は
拾玉集古　ゆくえもそうつせ雲のうらの
新続古今　みるめ刈あまの袖のうらかぜ
古今雑上　あふさかの関水にかげみえしより
続後撰　世中はつくづくつくかなをを
拾遺愚草　たちのぼりまくまきのうらに
新古秋下　おほつかなみやまの雲の
千載雑上　独のそ月をあかしの秋の夜は
拾玉集古　ゆくえもそうつせ雲のうらの
新続古今　みるめ刈あまの袖のうらかぜ
古今雑上　あふさかの関水にかげみえしより
続後撰　世中はつくづくつくかなをを
拾遺愚草　たちのぼりまくまきのうらに
新古秋下　おほつかなみやまの雲の
千載雑上　独のそ月をあかしの秋の夜は
拾玉集古　ゆくえもそうつせ雲のうらの
新続古今　みるめ刈あまの袖のうらかぜ
古今雑上　あふさかの関水にかげみえしより
続後撰　世中はつくづくつくかなをを
拾遺愚草　たちのぼりまくまきのうらに
新古秋下　おほつかなみやまの雲の
千載雑上　独のそ月をあかしの秋の夜は
拾玉集古　ゆくえもそうつせ雲のうらの
新続古今　みるめ刈あまの袖のうらかぜ
古今雑上　あふさかの関水にかげみえしより
続後撰　世中はつくづくつくかなをを
拾遺愚草　たちのぼりまくまきのうらに
新古秋下　おほつかなみやまの雲の
千載雑上　独のそ月をあかしの秋の夜は
拾玉集古　ゆくえもそうつせ雲のうらの
新続古今　みるめ刈あまの袖のうらかぜ
古今雑上　あふさかの関水にかげみえしより
続後撰　世中はつくづくつくかなをを
拾遺愚草　たちのぼりまくまきのうらに
新古秋下　おほつかなみやまの雲の
千載雑上　独のそ月をあかしの秋の夜は
拾玉集古　ゆくえもそうつせ雲のうらの
新続古今　みるめ刈あまの袖のうらかぜ

新古今雑上　よもすがらあらしの山のさむしろに…　…
続古今雑下　さゝぬもみぢ…　…
続古今秋上　かぜうつる…　…
続後撰雑四　…
玉葉冬　…
風雅雑三　…
同雑下　…
続千載雑下　…
拾玉集下　…
拾遺愚草　…
新後拾遺秋上　…
玉葉雑五　…
続後撰雑下　…
古今雑三　…
拾玉集一　…
風雅雑中　…
新後拾遺雑中　…
続後撰雑三　…
拾遺愚草上　…
金葉雑一　…
風雅冬　…
続古今秋下　…
新後拾遺雑一　…
拾遺愚草　…
掛　…
拾遺愚草　…
続後撰冬　…

玉葉旅　…
新古今秋下　…
続後撰秋下　…
拾遺愚草上　…
金葉雑上　…
新後撰雑中　…
続後撰雑三　…
拾遺愚草　…
玉葉雑一　…
風雅冬　…
続古今秋下　…
新後拾遺雑一　…
拾遺愚草　…
掛　…
拾遺愚草　…
続後撰冬　…

古今巻五　秋風のふきとふきぬる武蔵野は　なへて草葉の色かはりけり　よみ人しらす

[illegible]　のはらのやまの[illegible]　なへて雲ゐの[illegible]

壬生二百下　西行[illegible]　なへてかはれる秋の夜の月　法皇御製

續千載羈旅　[illegible]家路[illegible]　なへてこの世を[illegible]　入道親王尊圓

新千載雑中　家の風[illegible]　なへてあはれ[illegible]　権律師仙覚

新續古今雑上　花ならぬ[illegible]木末も[illegible]　なへてゆき[illegible]山

拾玉集二　波の音や松のあらしもやむらん　なへておなしく[illegible]の雲　出羽

玉葉巻上　雪[illegible]　なへてみ[illegible]

拾遺愚草上　[illegible]　なとか[illegible]　よみ人しらす

後撰巻四　[illegible]　なとか[illegible]

續千載三　[illegible]　なとか[illegible]　権大納言[illegible]

新後撰巻三　[illegible]人の[illegible]　なとか[illegible]　左近中将具氏

後撰巻六　[illegible]　なと[illegible]

新拾遺　[illegible]　なと[illegible]

古今巻三　[illegible]今への[illegible]　なと[illegible]　大江[illegible]

同巻　やまかせに花[illegible]　なとほく[illegible]

續千載三　[illegible]　なとよりの[illegible]かち[illegible]　小野[illegible]

玉葉巻一　[illegible]　なとかけ[illegible]　更衣源[illegible]

拾遺巻三　玉[illegible]　なと[illegible]つゆ[illegible]

續拾遺秋　[illegible]時[illegible]　なとかあかぬ[illegible]　院弁内侍

續千載　[illegible]　なとわか[illegible]　入道[illegible]

新古今巻五　[illegible]山[illegible]　なとかはるらん

玉葉巻　人[illegible]山[illegible]　なとかはやく[illegible]

後撰巻五　[illegible]　なとわかさらん　藤原[illegible]

新古今巻　[illegible]　なとわかれ[illegible]　延喜御製

新拾遺巻一　涙川[illegible]水[illegible]　なとわか[illegible]　よみ人しらす

古今巻一　[illegible]　なと[illegible]　躬恒

新葉秋祇　[illegible]川[illegible]　なと[illegible]　よみ人しらす

大和物語　[illegible]　なとわれ[illegible]　祥子内親王

新後撰巻六　[illegible]月[illegible]　なと[illegible]　侍従[illegible]

續古雑下　[illegible]　なと[illegible]　前大僧正[illegible]

風雅巻十三　我[illegible]　なと[illegible]　儀子内親王

續後拾遺上　織女の[illegible]　なと[illegible]　院御製

大和物語　[illegible]　なと[illegible]

新古今巻　雲井[illegible]　なと[illegible]　前大納言[illegible]

古今巻一　人[illegible]我[illegible]　なと[illegible]　よみ人しらす

山家集下　家の風ふきつたふるも
拾遺秋　萩の葉も
古今雑下　浮世のかたも
拾遺雑上　うき世の門も
拾玉集四　うき世にも
好撰名所　あるものを
同雑二　あらばやと
拾遺雑上　なくなく
後撰雑上　立ち添えて
好撰名所　ふるさと
後拾遺一　雲井まで
後古雑上　あきはぎの
末摘花　露ぞ
好撰名所　まつもむ
同五中　あるものを
古今春　あらばや
好撰名所　散るなく
後拾遺一　ふるさと
後古雑上　あきはぎの
好撰名所　ふるさと
新古雑下　あるものを

同五中　品のやうにて
新古雑上　ありてあるべき
後古雑三　ありてのみ
後拾遺一　それもさる
新勅雑四　ふるさと
古今春一　秋の色の
新古雑下　ふるさと
後拾遺一　ありてかは
新勅秋上　思ふべき
新古雑下　ありてこそ
後拾遺秋　ふるさと
新古冬　月もこれ
後古秋上　絶えもせず
新古雑中　数ありて
玉葉雑六　ふるさと
後古秋上　月影のみ

行幸 [illegible]
拾遺恋五 上 [illegible]
[illegible] [illegible] 源知行
後撰秋上 [illegible] 大江千里
[illegible] [illegible] 安嘉門院四条
新古恋三 [illegible] 定家卿
[illegible] [illegible]
後千恋三 [illegible]
[illegible] [illegible]
詞花恋上 [illegible] 藤原惟成
新古雑上 [illegible] [illegible]
長秋詠藻 上 [illegible]
新千雑上 [illegible] [illegible]
山家集下 [illegible]
大和物語 [illegible]
拾玉集三 [illegible]
風雅雑上 [illegible] 西行法師
新葉恋二 [illegible] [illegible]

新拾雑上 [illegible] 人丸
新後拾雑上 [illegible] [illegible]
拾遺恋五 上 [illegible]
拾玉集一 [illegible]
新葉秋上 [illegible] [illegible]
月清集上 [illegible]
詞花恋下 [illegible] [illegible]
後千恋下 [illegible]
古今誹諧 [illegible] [illegible]
後撰恋上 [illegible] [illegible]
千載哀傷 [illegible] [illegible]
新千神祇 [illegible] [illegible]
新古夜 [illegible] [illegible] 法師
古今恋五 [illegible] [illegible]
拾遺雑恋 [illegible] [illegible]
山家集下 [illegible]
[illegible] [illegible]
後古雑中 [illegible] 正三位[illegible]

後撰巻一　人ふるをなどもみつるそでよりもまづ
新古巻三　色深き夏の袂もさほ河の浪のしがらみ
後撰巻三　つせの海ゝ深くあまをぶねの夜
拾遺巻上　ふりくつもれるものをみつれば
同死雑上　色もあひなくうき物と思ふらく
拾遺巻哀　もゝとせもかくやうき物と思ふらく
古今巻六　君をのみ思ふ物から
後撰巻四　こひわびぬうらもかよはぬ
玉葉巻三　おもかげもうつりやすらん
拾玉集六　山ぢの月の夜ゝ
同一　海ぢふく秋風桃の葉の代ゝ
長秋詠藻　ありあけの月をまねきてをぎの葉の
拾玉集一　をぎの葉のそよ
同死秋　ふるさとの庭の
新千冬　ふるさとの庭の
同哀傷　なきかげもうつりやすらん
新古秋上　なきかげもうつりやすらん

拾玉集六　うらしまのあまのつり舟
拾遺巻哀　おなじくはあまのつり舟
後撰雑上　七十九老のあまの山ぢ
月清集上　山ぢ風のさそひ
玉生二巻　風さそひてふりつもる雪
風雅巻哀　そまの山ぢの雪
新古雑下　秋の四方のかりがねも
拾玉集四　今ぞきゝつるみやこ人
同　もゝとせかくやうき物と
同六　おもかげもうつりやすらん
玉生二巻　みそぎ川ゝの水
新拾雑下　おもひそめ月のかつらの
新葉冬　歌詠みに
新拾巻三　実教まで
新後撰巻哀　今ぞきゝつるみやこ人
拾玉集六　きりのよ今ぞきゝつるみやこ人
新後古巻　月見ん人の袖もあるぞかし

第二類本
中院令一本
唐仁王
新古雑下
勝定院贈左大政

續古今戀二 [illegible] 源具氏朝臣
新千載戀三 [illegible] 鴨祐之
拾遺戀一 [illegible] よみ人しらす
拾遺雑戀 [illegible]
續拾遺秋上 [illegible] 正三位知家
新續古今冬 [illegible] 法印經賢
續拾遺秋上 [illegible] 式乾門院御匣
續拾遺戀三 [illegible] 殷富門院大輔
同 [illegible] 入道前攝政左大臣
新千載哀傷 [illegible] 中務卿宗尊親王
壬生二 上 [illegible]
長秋詠藻 [illegible]
新古今雑上 [illegible] 藤原家隆
續千載雑上 [illegible]
續古今哀傷 [illegible]
須磨 [illegible]
新續古今秋下 [illegible]
拾遺愚草下 [illegible]

拾遺愚草員外上 [illegible]
壬生二中 [illegible]
月清集下 [illegible]
同上 [illegible]
拾玉集一 [illegible]
長秋詠藻下 [illegible]
壬生二中 [illegible]
新葉雑下 [illegible]
新拾遺羇旅 [illegible] 法師西行
千載秋上 [illegible] 法印静賢
新後拾遺雑上 [illegible] 權中納言公雄
風雅旋頭歌 [illegible] 源仲正
拾遺愚草下 [illegible]
新拾遺戀一 [illegible] 従三位親子
新葉羇旅 [illegible] 前大納言房経
同戀四 [illegible] 冷泉入道前右大臣
續拾遺戀三 [illegible]
拾玉集七 [illegible] 前大僧正慈鎮

拾玉集三　千年經て多くの松の枝ならぬ
壬生二品上　多くの春を重ねもありもせよ
後拾遺雜上　家長朝臣の家の障子に
新後撰雜上　書侍りける山里の
新葉雜上　雪消てあらぬ谷うけて
風雅雜三　うち靡くかしと思ふまでに
後拾遺雜二　春の山めさしもしらぬ
新千載雜下　限なきうらいつまでか千
玉葉雜二　年の松陰やまつ久しき
新後撰雜上　はつ春の心を
新後撰雜上　題しらず
文保百首　はつ春の霞の袖を
風雅雜中　山人のあつま屋の柱ゆふ
玉葉雜二　霞てへかつ波の
新千載雜下　なをうらに
後拾遺雜上　住山ふりにしみちを
新千載雜上　花もさきぬ待くらすみを
後拾遺雜三　きのもとの
新勅撰雜二　待ながら
後拾遺雜三　待ながらこと
新勅撰雜二　なをうらに
落雲
後古今雜二　あるかなきかの
新拾遺雜二　世のうきみ山の奥までに
玉葉雜一　新後撰雜下　多くの秋の
新後撰雜下　ありあけの月
新後古今雜中　今うらへの風そ
後古今雜中　秋の行衛
新千載雜中　入道前太政大臣
後古今雜中　秋の行衛
玉葉雜六　雁鳴て

川派集　雪乃こほりのみとめ
拾玉集又　八雲の秋
新千載雜中　をしほやまちそ
新勅撰上　かすみわたれる
新千載雜上　住山ふりにしみちを
新千載雜上　花もさきぬ待くらすみを
後拾遺雜三　きのもとの
新勅撰雜二　待ながら
落雲
後古今雜二　あるかなきかの
新拾遺雜二　世のうきみ山の奥までに
玉葉雜一　新後撰雜下　多くの秋の
新後撰雜下　ありあけの月
新後古今雜中　今うらへの風そ
後古今雜中　秋の行衛
新千載雜中　入道前太政大臣
後古今雜中　秋の行衛
玉葉雜六　雁鳴て

宗家
藤原長房
後三條院
平親清女
大納言重
俊貞院別當
參議長遠
權大納言氏

拾遺賀外 あつびとの [illegible]
新後拾恋一 みちのくの [illegible] 中務卿宗尊親王
新葉雑上 [illegible] 建礼門院
後拾恋 [illegible] 二條院讃岐
新後拾雑下 今 [illegible] 前大僧正慈鎮
続拾秋上 [illegible] 権中納言定家
新後拾夏 [illegible] 後京極摂政
続千恋四 [illegible]
拾遺恋下 [illegible] 今上御製
月清集下 山 [illegible]
続拾恋二 [illegible] 惟明親王
新拾遺春 [illegible] 花園院御製
新続古雑中 [illegible]
新千雑中 [illegible] 今上御製
新続古雑中 [illegible]
後撰雑三 [illegible]
万葉冬 [illegible]

壬生二 又下 天の原 [illegible]
風雅神祇 [illegible] 前右大将
新千恋三 [illegible] 寂蓮法師
新勅恋三 [illegible] 前大納言
後拾遺雑二 [illegible] 大内記道
新後雑上 [illegible]
拾玉集二 [illegible]
新千恋二 [illegible] 式部卿親王
新古雑下 [illegible] 権中納言
新後拾恋四 [illegible] 参議雅経
新葉雑上 [illegible] 関白左大臣
新葉羇旅 [illegible] 前大僧正
新後拾雑下 [illegible] 中務卿宗良親王
新後拾雑上 [illegible] 前大納言
新古雑下 [illegible]
新拾神祇 [illegible] 寶方親王
新古恋四 [illegible] 寶方親王

風雅雜下　うとくもなりぬる花の世となれば　紅葉雨降
玉葉雜二　曉の鐘のひびきにおどろかす　或名所に
山家集下　うらうちかすみわたるころ
後撰雜二　あはれなるものは夕暮の空
新後拾遺二　かりがねの帰るみやこの秋風に
新後拾遺二　なれゆく袖の右ひだりの
風雅雜下　かたみぞと秋の深くも
拾玉集中　名をも惜まぬ恋ぞ
新古今雜上　二首述懐
新勅撰雜二　ながらへばまたこの頃や
新勅撰雜二　なつかしき
玉葉雜一　思ふ事
拾遺愚草上　月
新葉雜二　ながめつつ
新後撰雜二　ふるさとの
新拾遺秋下　雲ぬしも
新勅撰秋下　月清集上　庭の池水

相模
平事時歌
女のもと
左近中将良
光大臣

士生二京上　先帝崩御のころ
拾玉集三　月秋深のころ狩の使うちもの
新後撰雜中　旅衣
拾遺二　君のよはひ
新勅撰三　明くる年の
壬生二京上　墨染の袖百敷のうら
新勅撰哀　あはれ今いくたび月
後拾遺三　思ふもの
同雜中　外の秋の
拾玉集中　我世
後拾遺雜二　いつ
新勅撰秋下　かたうあれ
歌合寛治　時
玉葉雜二　いかでかは
風雅雜下　もしやきつ
後拾遺雜上　みるこころ
拾玉集六　浮世
新後撰雜下　春の世

相撲
左京大夫顕
輔
左京大夫顕
輔
相撲
左京大夫顕
輔
相撲
左京大夫顕
輔
相撲
左京大夫顕
輔

新拾遺三　　まて志つゝ今宵を松の
同雑上　　山ちよりおろす秋の
玉葉雑四　　ひとり移よあしもしらて
新続古今雑中　　老らくの月まちえてや
続千載雑上　　秋のよもやうやく人
古今秋上　　あき深みかりかねなきて
古今夜　　時ちかくなりぬれや
仲算朝臣　　郭公なをうき雲にかくれ
玉葉雑二　　神なひおろしの
続千載雑下　　さひしさそまさりける
拾遺愚草　　いせうらこととはゝ
続後拾遺三　　なくこゑをたにきゝ
新続古今秋上　　なりもしれかのこきおと

新拾遺三　　あしのやそ氏河をつゝ
同雑上　　行きゝともそうなき
玉葉雑四　　源よりおくやまを
続千載雑一　　源よりおくやまを
続後拾遺雑中　　源よりおくやまを
古今秋上　　源よりおくやまを
古今夜　　源よりおくやまを
仲算朝臣　　源よりおくやまを
玉葉雑二　　源よりおくやまを
続千載雑下　　源よりおくやまを
拾遺愚草　　源よりおくやまを
続後拾遺三　　源よりおくやまを
新続古今秋上　　源よりおくやまを

続拾雑中 数ならぬ身にとりてはをしき今を なかりきとまさしき世にもおもひしれ 平宣時
続古秋上 ならひある岩のかけちもさだめ なかりきとおもふ秋の夕暮 後鳥羽院御製
新千雑上 風さそふ花のかけの尾の上にて なかりきとおもふ宮こぞ恋しき 従三位為実
続拾雑中 おもひやる昔おもひし世中の なかりきとおもへばいとど悲しき 後二条院
新後拾秋上 いつのまに山をもえなく霞たる なかりきとおもへば秋のあはれ 藤原雅経
続後撰雑中 行すゑもくもらぬ世にそ住ける なかりきとおもひつつ世にへにけり 侍従具定
後撰冬 なれける水に月のやどるかな なかりきとおもふにつけて袖ぞぬれける 大納言
新古雑中 世中はむかしもかくそありけるを なかりきとおもふや世をばしたふらん 讃岐
千載恋五 わすれなんと思ふ袖は枯てもさむき なかりきとおもひしをとこそまたせ 和泉式部
月清集上 笛竹の声のうちに住つくる なかりきとそふともなくぞ世のうき 後京極摂政
壬生二集下 谷川の水のまにまにつけてきく山 なかりきとおもふ松のみそふかき 入道二品親王
続後撰雑上 我ならでみやまの秋の夕ぐれを なかりきとおもふ身の鹿ぞ鳴なる 信生法師
新千雑下 かの世もかくや秋の風の音 なかりきとのみおもふなる世を 順徳院
拾遺愚草上 暮ぬなりあすもまたとは頼まれず なかりきとおもはばこそ見め一夜 後光明照院前関白
続古雑上 かくらん秋のくれはてし世は なかりきとのみおもひけるかな 二条院讃岐
続拾恋 なからひてこころよわくもなりし世 なかりきとのみおもひける月 従二位家隆
新勅撰 うちしぐれてさびしさまさる秋 なかりきとのみおもひけるかな
同雑二 さらぬ夜の露はさながら なかりきとのみおもひける秋のゆふぐれ

新続古雑中 数ならで身をさへ人にしられぬを なかりけり世の人もうらみぬものを 二条院讃岐
続拾恋四 あはれとは誰かはいはん世の中に なかりけりそれもいかなる 源有長
新拾恋 よそにのみ見てややみなん世中は なかりけりおもひ知るらん 在原行平
後拾遺雑一 わが身こそ行末しらぬ物なれば なかりけりさらにうきよの 大僧正道玄
山家集下 世中をいとふまでこそかたからめ なかりけりおもひしれば 後光厳院
拾遺愚草中 いかばかり世をかへてもおもふらん なかりけりおもひかへせば 土御門院小宰相
続拾雑下 身の程のよそにもしらぬ我世かな なかりけりおもひこそすれ 権大納言
拾遺愚草上 うすくこそ契りもあれやいかにせん なかりけりおもふ心の 八条院高倉
新後拾恋 ありはててうき世の中にたれか なかりけりおもひのほかの
続後撰恋 我ならでなにはの浦の浪のおと なかりけり行末遠き 京極前関白家肥後
続古雑上 我なりにかへるべき世は なかりけり行かへりつつ秋の夕暮 藤原基俊
月清集上 ことわりの岸にもきしに松の葉 なかりけりおのれのみこそ 清原深養父
拾玉集六 おもふことさびしき秋の夕べかな なかりけりおもひしる人 在原業平
続後撰恋 いつまでかうきにたへても世にすまん なかりけり行末もまた
新葉秋下 山里のかけひの水のおとたえて なかりけりまた月ぞすむ
新後恋二 ありしよの夢はかへらで思ふ なかりけりおもひなき身は
同 なにごとも世にありながら なかりけり行末遠き
新古雑上 いくとせもかはらぬ秋のけしき なかりけり行末遠き身の暁

拾玉集三　やまぢのこもまもりあへるかりいほの
同　行のほどろ秋風ふきそふるかな
同　にはたづみすまずくまなくうつるもの
同　かげをみて今日の月日をおもふかな
殊古奉傷　山のさとのあれもてつひにおもかはる
新殊新雑下　あまつ空ふきはらふらん
新古今一　ゆめぬるもあさもうき世ぞ
新勅撰二　つゆ露をなどうき山月にあかすらん
拾遺愚草　ふるさとの秋のみやこのあれはてて
新古今下　なほ松風をかたみにぞきく
拾玉集四　ながめやるかたもなきまで
新古今雑春　さえわたる澤の若菜へ
同　おくもの月かげさむし
殊古奉三　うつるまで光やどすもうきものを
殊古雑上　さてもみむ時雨ふりしく山のまを
殊古恋下　ふきとほすよもの秋風
金葉雑上　宇治川のそこのみぎはの
　忠快法印

拾遺愚草　みやまぢをおもひやるかなそのかみの
玉葉雑一　ものつくりこしふるさとを
拾遺愚草　山ぢより月もおなじをながめつつ
殊古奉　一むらやそのかみ人の
新古今夏　ゆふぐれはいかにおもへばかなしきぞ
同　ながめやるかたもなきまで
殊古奉　ふきとほすよもの秋風
新古今雑上　長秋詠藻下　おもきぬるかなたもとの月
拾遺愚草　山ぶかき集上　ふるさとの秋のみやこの
殊拾雑上　ふきとほすよもの秋風
殊古雑上　ものつくりこしふるさとを
玉葉旅　おもひやるかなそのかみの
拾遺愚草　ながめやるかたもなきまで

　前権僧正慈円
若草都旧
　中宮大進有忠
若草景綱
　若草経家
旧宅極楽寺
　静仁法師

千載雑中　行末まで
風雅雑上　見ねつる花をうつもれる
新古今　雪明りせぬ
玉葉雑一　おくれゐる
千載雑中　うき世をそ
拾玉集三　あくがれてねぬ
新拾雑中　おとろくれのあしもせぬ
新続雑中　うき世をも
続千載雑　行末良宗
新葉雑中　女のうそ
新拾雑上　山里ふかき
風雅秋下　おもひたえ
狭衣四　をちこちの
拾玉集一　みなの人の
続拾遺三　今こんとの
新続古今　降出でよ
新古雑下　園蘭
続古今　上東門院

新古今　やそしまの
続後撰　ゆくへしらぬ
新古今　うき寝の時
新古今　うつり
拾玉集一　住人の
月清集下　君ぞ行
山葉秋下　雲ぢ
同旅　思ふ
新続古今　行末を
新古今　なにはより
千生二条上　なにはより
新古今　みちの
拾遺雑　なにはより
続後撰　なにはより
新続古今　なにはより
拾玉集一　なにはより
月清集上　なにはより
新古今　なにはより
新拾雑上　なにはより

梅枝

拾遺愚草上 [illegible]

雅材

新勅撰古今二 [illegible] 洞院摂政左大臣

拾遺愚草 [illegible] 季政経重

新続拾遺春上 [illegible] 皇太后宮大夫俊成女

拾遺愚草下 [illegible]

為雲

拾玉集六 [illegible] 為政

新続拾遺秋下 [illegible] 太宰大弐重家

新勅撰恋二 [illegible] 藤原永賢

千載恋二 [illegible]

詞花恋上 [illegible]

拾玉集七 [illegible]

続撰恋四 [illegible] 貫之

続拾遺雑四 [illegible] 藤原親秀

続撰恋下 [illegible] 藤原雅経

新千載 [illegible] 入道前摂政左大臣

続拾遺雑四 [illegible] 左大臣

月清集上 [illegible]

続拾遺恋三 [illegible] 藤原雅経

新続拾遺秋上 [illegible] 従三位成忠

続拾遺雑二 [illegible] 土御門

長秋詠藻下 [illegible] 大弐三位

明石

新続古今下 [illegible] 後京極摂政

新千載雑中 [illegible] 源師光

新葉恋下 [illegible] 新陽明門院

拾遺愚草上 [illegible]

新拾遺恋一 [illegible]

拾玉集四 [illegible] 平重時

長秋詠藻下 [illegible]

玉葉雑五 [illegible] 前参議家親

拾遺愚草上 [illegible]

同 [illegible]

山の集上　ほとゝぎすの初音を聞て　平時宣
新千載雑下　うつゝともなきねの面影を
拾遺愚草　われこひわたるあけぐれのそら
続古今　ほとゝぎすいまも名のるやさつきやみ
続拾遺雑三　世をすてゝ宿とや出ん郭公
千載歌撰　かくもうき身の名乃和川のみ
同雑中　なれてなを
新古雑下　しくるゝ袖をいかにほすらん
拾玉集三　うきてそ人のこひしかるへき
同　あやめ草ねをたえ〳〵にかけてのみ
続拾遺雑上　ねなくに人のこひしかるへき
新拾雑冬　草枯のあとをそしのふ秋の野の
続拾雑冬　花ゆへ人のこひしかるへき
拾遺愚草　きてとくやうきにうつりのそめ衣
拾玉集五　うきてそ人のこひしかるへき
続古今雑中　行て世のうさをもわすれ
新勅雑中　ねなくに人のこひしかるへき

続古今雑上　ほとゝぎすの初音を聞て　平時宣
続古今　つゐにまたきかぬ人こそ恨めし
新後古今　郭公なをこの里の初音にも
玉葉雑六　ねなくに人のこひしかるへき
新千載　うきてそ人のこひしかるへき
拾玉集一　沢水にそゝぐ雪の光にも
風雅集下　なをこの里の初音にも
新勅雑三　人のこひしかるへき
新後拾遺　なをありあけの月ぞのこれる
新勅秋下　なをこの里の初音にも
新拾雑下　なをあやめ草ねをたえ〳〵にかけてのみ
続拾雑中　なをあれ行沢の玉水
拾玉集二　なをあやめ草ねをたえ〳〵にかけてのみ
新後古今　なをこの里の初音にも
千生二本中　なをあやめ草ねをたえ〳〵にかけてのみ
新葉雑下　みてもまた山ちの月の
拾遺愚草上　もゝとせを一夜の夢の
新後撰雑上　いつもかはらぬ山里の月

月清集上　あまの衣のけさの袖にも[illegible]　なほあはれなる神代なりけり

続後撰雑中　百敷や古き軒端のしのぶにも　なほあまりある昔なりけり　順徳院御製

新拾遺恋下　たのめおく山さへ[illegible]の世にも　なほあまりある有明のかけ　後伏見院御製

風雅恋中　花[illegible]うつろふ[illegible]　なほあけの[illegible]　権大納言公宗母

新拾遺冬　山川のおとに[illegible]　なほあさからぬ[illegible]　前大納言宗明

新後撰雑二　ふりてぬる身をも[illegible]　なほあさからぬ[illegible]　紀長谷雄卿

同　おくの谷のかけも[illegible]　なほさ[illegible]侘ぬらん

壬生二　上　霞[illegible]むすぶ底の[illegible]　なほ秋峯の山嵐の風

続古今　風さむみ河せの氷[illegible]　なほあさ[illegible]　中納言為氏

続拾遺　[illegible]　なほあさき[illegible]松のみどり　醍醐入道前太政大臣

拾遺愚草上　つらぬき[illegible]　なほ秋の[illegible]

壬生二　上　ふりまさる[illegible]　なほ秋[illegible]月の影

新続古今上　月影の雪にもつもり[illegible]　なほあさき[illegible]　左大臣

長秋詠藻　[illegible]木葉[illegible]　なほ[illegible]白河の関

千載　三　[illegible]　なほさえ[illegible]　左大臣

新千載[illegible]　[illegible]　なほさ[illegible]

続拾遺　[illegible]日の[illegible]　なほさ[illegible]

新続古今　[illegible]　なほさ[illegible]　前中納言為秀

続古新雑[illegible]　[illegible]　なほさ[illegible]　天台[illegible]

新葉[illegible]　[illegible]山[illegible]　なほさ[illegible]我[illegible]　文貞公

続拾遺[illegible]　[illegible]　なほさ[illegible]　赤染衛門

新続拾遺三　[illegible]　なほさ[illegible]

[illegible]　[illegible]　なほさ[illegible]

新続拾遺　[illegible]　なほさ[illegible]君[illegible]

拾玉集二　[illegible]　なほさ[illegible]

新続古今　[illegible]　なほさ[illegible]国の月影　式乾門院御匣

風雅恋中　[illegible]　なほさ[illegible]　従二位家隆

続古今三　[illegible]　なほさ[illegible]の世と[illegible]人　藤原信実朝臣

続後撰雑中　[illegible]　なほさ[illegible]の世[illegible]　雅成親王

続千載[illegible]　[illegible]　なほさ[illegible]　後徳法師

新勅撰　[illegible]　なほさ[illegible]　権中納言師時

拾遺愚草上　[illegible]　なほさ[illegible]

新続拾遺　[illegible]　なほさ[illegible]の梯[illegible]　祝部成賢

山家集下　[illegible]　なほさ[illegible]山[illegible]

同　[illegible]　なほ[illegible]

続拾遺　[illegible]　なほさ[illegible]　皇[illegible]　俊成

壬生二荒上　みそぎ川ゆふでもそふる秋の神
新古今雑上　にしきとそ人はいふめる山里も
新後撰雑上　我もをしへももみちをや山里の
同若宮　よりやふる神垣の山乃名日をも
拾玉集四　そ百枝表裏をあらそふ
壬生二荒下　秋代なり月もいくよもめくりあふ
拾遺愚　かくりふるさとをみもうつろふ
風雅集中　ふれぬとそなかめ侘ぬる
新古今一　ふるさとと恨んとすれ共
同賀　なるさとも松ももりこしめて
新後拾遺　我君のよもせの坂をこえぬも
金葉雑一　年毎に咲そふ宿のさくら
拾玉集四　とをおりのみれぬ秋の月
新拾遺　同名も今日をみやこ哉
新後撰雑　あふさかの関
壬生二荒上　ふるさとも今そ恋しき
新後拾遺　ふる雑
壬生二荒中　ち月のうきまくらかな
新葉雑下　ふるまてありとやそれも
拾遺愚草　もとよりそ
新古今雑　ちとせふる松の色
新拾遺上　基のかみもうつろふ
壬生二荒中　住緑松のこもれる
金葉二上　なをゆふかしらゆきもふる
拾玉集六　ふるさとの雪
新後撰雑　なをゆふかしらゆきもふる
壬生二荒中　なをゆふかしらゆきもふる
風雅集中　なをゆふかしらゆきもふる
新後拾遺　なをゆふかしらゆきもふる
新葉雑三　つまもこもれるそれもふる
拾玉集一　秋乃野のをのへの雪
新古今雑　なをゆふかしらゆきもふる
新後撰雑　なをゆふかしらゆきもふる
拾玉集六　冬の月もいとさえわたる
壬生二荒中　雑波もかものそふる
風雅集中　すみそめ袖をそふる
新後拾遺　今夕もいとさえわたる

拾遺愚草　ふるさとの雪
新古今冬　もとよりそ
新古今雑　ちとせふる松の色
新拾遺上　基のかみもうつろふ
壬生二荒中　住緑松のこもれる
金葉二上　なをゆふかしらゆきもふる
拾玉集六　ふるさとの雪
新後撰雑　なをゆふかしらゆきもふる
壬生二荒中　なをゆふかしらゆきもふる
風雅集中　なをゆふかしらゆきもふる
新後拾遺　なをゆふかしらゆきもふる
新葉雑三　つまもこもれるそれもふる
拾玉集一　秋乃野のをのへの雪
新古今雑　なをゆふかしらゆきもふる
新後撰雑　なをゆふかしらゆきもふる
拾玉集六　冬の月もいとさえわたる
壬生二荒中　雑波もかものそふる
風雅集中　すみそめ袖をそふる
新後拾遺　今夕もいとさえわたる

月清集下　玲々山をれの戸のさゝやめ
風雅集　　をはの実のあけをもおもは
新後拾遺　ふりの経成をきゝそめ
同雑中　　表紙やをしうく成をそ
新千載　　をのつゆのやもるとゝ
新後撰雑中　あらしもなくてよき世
壬生二品下　待られてよりすゑ本
拾遺愚草　　葉紅て雪とふり
拾玉集三　　絶てそとのゝ
同七　　　　ふりをみ
新後撰雑中　新四川茶摘のつゝ
猿丸集　　水海を蘇のこの
新後撰雑中　絶てそとのゝ
猿丸集　　なをみ
新後撰雑中　ふりをみ
猿丸集　　待てそとのゝ
新後拾遺　月をまちてこのそとてから
拾遺愚草　　いとせめてうきをの

秋の末松多社の
新拾冬　　彼の社なる
猿丸集　　年月をへてそ
猿丸集　　なをみ
月清集下　　世のうきをそ
猿丸集　　つれなきこゝ
新後拾遺　　いつもせんつきこゝ
壬生二品中　　雪もをまの
猿丸集　　ちかの海のり
新勅撰上　　猶そをもみぬ
壬生二品上　　花のあるへき
同中　　御社のうへ
新勅撰上　　みつゝそのまゝ
猿丸集　　ありをまつ
新後拾遺　　むしをまつの
月清集下　　ちくさの
玉葉雑四　　つゆもつゆ
猿丸集　　なをみ

昭要院一除
海ゝ
経永成
小侍従
平時元
正三位家
信実朝臣
中納言資継

新古今雑上　松風をなごりにとめてもろともにいざ
給遺和歌集　おもひけるかひもありけりもろともに
後千載集　松のまもなごりおもはぬ
拾玉集二　そらに雲山のうちもうき
新勅撰　ありあけの月
千載集　をぐら山
新古今秋下　ながらへて
後千載　ありあけの
新古今冬　ありあけの
後拾遺夏　ありあけの
新古今三　ありあけの
空蟬　ありあけの
風雅五一　ありあけの
月清集十　ありあけの
新古今秋上　ありあけの
玉葉秋上　ありあけの
同雑二　ありあけの
新後拾遺　ありあけの
新古今一　ありあけの

雑上　松風をなごりにとめてもろともにいざ
給遺和歌集　おもひけるかひもありけりもろともに
後千載集　松のまもなごりおもはぬ
拾玉集二　そらに雲山のうちもうき
新勅撰　ありあけの月
千載集　をぐら山
新古今秋下　ながらへて
後千載　ありあけの
後拾遺夏　ありあけの
新古今三　ありあけの
空蟬　ありあけの
風雅五一　ありあけの
月清集十　ありあけの
新古今秋上　ありあけの
玉葉秋上　ありあけの
同雑二　ありあけの
新後拾遺　ありあけの
新古今一　ありあけの

雑上　松風をなごりにとめてもろともにいざ
給遺和歌集　おもひけるかひもありけりもろともに
後千載集　松のまもなごりおもはぬ
拾玉集二　そらに雲山のうちもうき
新勅撰　ありあけの月
千載集　をぐら山
新古今秋下　ながらへて
後千載　ありあけの
後拾遺夏　ありあけの
新古今三　ありあけの
空蟬　ありあけの
風雅五一　ありあけの
月清集十　ありあけの
新古今秋上　ありあけの
玉葉秋上　ありあけの
同雑二　ありあけの
新後拾遺　ありあけの
新古今一　ありあけの

雑上　松風をなごりにとめてもろともにいざ
給遺和歌集　おもひけるかひもありけりもろともに
後千載集　松のまもなごりおもはぬ
拾玉集二　そらに雲山のうちもうき
新勅撰　ありあけの月
千載集　をぐら山
新古今秋下　ながらへて
後千載　ありあけの
後拾遺夏　ありあけの
新古今三　ありあけの
空蟬　ありあけの
風雅五一　ありあけの
月清集十　ありあけの
新古今秋上　ありあけの
玉葉秋上　ありあけの
同雑二　ありあけの
新後拾遺　ありあけの
新古今一　ありあけの

雑下　うき身にながらへわびぬる
新古今雑中　わびぬる今ぞ
後拾遺雑中　ながらへ
後拾遺雑上　ながらへ
後拾遺雑下　ながらへ
後拾遺雑中　ながらへ
後拾遺雑上　ながらへ
後拾遺雑下　ながらへ
新古今雑中　ながらへ
後拾遺雑上　ながらへ
後拾遺雑中　ながらへ
後拾遺雑上　ながらへ

雑下　うき身にながらへわびぬる
新古今雑中　わびぬる今ぞ
後拾遺雑中　ながらへ
後拾遺雑上　ながらへ
後拾遺雑下　ながらへ
後拾遺雑中　ながらへ
後拾遺雑上　ながらへ
後拾遺雑下　ながらへ
新古今雑中　ながらへ
後拾遺雑上　ながらへ
後拾遺雑中　ながらへ
後拾遺雑上　ながらへ

雑下　うき身にながらへわびぬる
新古今雑中　わびぬる今ぞ
後拾遺雑中　ながらへ
後拾遺雑上　ながらへ
後拾遺雑下　ながらへ
後拾遺雑中　ながらへ
後拾遺雑上　ながらへ
後拾遺雑下　ながらへ
新古今雑中　ながらへ
後拾遺雑上　ながらへ
後拾遺雑中　ながらへ
後拾遺雑上　ながらへ

雑下　うき身にながらへわびぬる
新古今雑中　わびぬる今ぞ
後拾遺雑中　ながらへ
後拾遺雑上　ながらへ
後拾遺雑下　ながらへ
後拾遺雑中　ながらへ
後拾遺雑上　ながらへ
後拾遺雑下　ながらへ
新古今雑中　ながらへ
後拾遺雑上　ながらへ
後拾遺雑中　ながらへ
後拾遺雑上　ながらへ

新葉雑上　集めもて見ん昔の人の言の葉を
殊勝撰発句　人の世のうきにそへてや秋の月
壬生二品　あし鴨もさらぬみ空に秋ふかみ
新撰菟玖波　長月の月にあらねどもる露
殊勝撰集　奥深く入りにし後の月ならで
新撰菟玖波　もらすなよ雲井の秋の月の影
新葉秋上　月清き秋の夜ごとに思ふ人
新撰菟玖波　なぐさめがたき秋の夜の月
新撰菟玖波　月ゆゑに物思ふ秋の夜ごとに
殊勝撰発句　袖の露いくしほとかは知らねども
新撰菟玖波　月ゆゑに物思ふ秋の夜ごとに
新葉雑下　ほのぼのと明石の浦の朝霧に
殊勝撰発句　島隠れ行く舟をしぞ思ふ
新葉雑下　いそなつむあまの袖だにほどなきに
殊勝撰発句　いかでか月を宿すべき
新葉雑下　ありあけの月を待ちいでつるかな
殊勝撰発句　山の端にかかるかひこそなかりけれ
新葉雑下　かたぶく月を神のやはせぬ

寿阿法師
法師なれば
関白左大臣

和泉式部
権大納言定雅
約束ありて
権大納言為世
醍醐入道前
権僧正聖快
東二條院御
権中納言俊忠
為道卿
権律師法印
空勝
新院御
権律師公順
大納言為世
平時香

新葉雑下　松の吹風音の秋なるうらに
拾遺愚草下　ふる代にうつろひ行く月
拾玉集　和歌の浦や我もひさしき
風雅雑中　我までに幾よろづよの秋の月
玉葉雑二　雲のゐる山ぢをみれば
新千載　風雅々
伺候雑下　雲のたえ間
殊勝撰発句　あくる夜ごとの月
新撰菟玖波　今はまた分けても袖の露ぞなき
新撰菟玖波　いつまでのつきぢぞ袖の
新撰菟玖波　かくしきれぬ涙の露を
殊勝撰発句　あくるもつらき夜の衣
新撰菟玖波　なるにぞ秋は
殊勝撰発句　なるにぞ秋は
新拾雑中　袖にあまる涙の露を
拾玉集一　山里のまがきをおそみ
玉葉二　思ひもわかぬ
新後拾一　ありしにもあらぬ
殊勝　ありあけの月
殊勝　山ぢのあるにつけても

白雲
佛國禅師
院御製
天台座主権僧
若宮の基俊
社頭伯顕仲
後京極摂政
前太政大臣
宗尊親王
権僧正公雅
後二條院御
平時香

古今集 なつかしと思ふ心のおくゐ井川
拾遺抄 澄ほ瀬のうつりになつかしき波
玉葉集一 おもかげも我よりあとの高川
新古今二 人もをしねぬ山の名くれ
新千載二 夏の暮傷
古今六帖 さゝれ石ゐのもとにいつ出ぬ我名や
新続古今二 清ぬしのこゝろにいつ出川
続拾二 清ぬしのこゝろにいつ出川
拾遺愚草 紅葉ちる山のまゆ雪ふり
拾遺雑上 あすの川もとゝやすせ出
後撰秋下 計西川秋ふるれん山ちる
須磨 あふさかなるこの川
玉葉二 谷川乃末氷くれの埋ふみ
後千載 座浪き心乃水乃もとゝぬ
新葉二 さゝなみまだのひのもと
同二三 うらさえてもとゝめまのなひろ
後拾二 うらかすめまのなひろ
新後拾二 あすもまた限とおもひわたり

子載 あすもまた限とおもひわたり 道命法師
拾玉集一 いつまでそくもりもはてぬ秋の月
古今集上 おきそふる人の心もうくもりあれ
後拾遺秋下 秋ふかきねさめのとこのさえ
後千載 初霜乃秋の中くらさえ
同 いつまでもふりはてゝ今のまさ
拾玉集云 秋のねうちをけふせよ雪の
風雅集下 秋津洲やあれもまさらぬ永福門院
月清集上 おもひよるまつ秋乃雲田山
同下 雲ゐまでのあるをさそふ深山
同上 山川乃水もしぐれて
新後拾 天河雲の波るさまでも
後千載 夜の衣ふるまゝやうへの月
後拾遺 天川水まさりしてうへの秋
金葉秋 いつまでもつゝかけ天の川
新葉雑上 年ふるのもとゝ月日みてふる
後拾遺 世のつきにありつゝみてふるの
玉葉冬 ゆく月日のの水もありあまる

拾遺雑傷　　きのとものり
彰考館一　　みくまのはやまもとあらん　栗田寛下
大和物語　　なくらんもかなしかるへきみくまのを　伊勢
古今俳諧　　なくきうともおもはすもあるを　清原元輔
後古雑中　　ふるさとのまつもあれたるやとなれや　桑子
彰古賀　　なくさめかねてもとのすみかの松を　清原元輔
千載賀　　ふるさとのまつもあれたるやとなれや　桑子
後千入春　　ふるさとのまつもあれたるやとなれや　桑子
風雅賀歌　　ふるさとのまつもあれたるやとなれや　桑子
月清集上　　ふるさとのまつもあれたるやとなれや　桑子
彰業秋上　　ふるさとのまつもあれたるやとなれや　桑子
於玉集古　　ふるさとのまつもあれたるやとなれや　桑子
風雅神祇　　ふるさとのまつもあれたるやとなれや　桑子
拾玉集三　　ふるさとのまつもあれたるやとなれや　桑子
月清集上　　ふるさとのまつもあれたるやとなれや　桑子
山家集上　　ふるさとのまつもあれたるやとなれや　桑子
後千賀　　ふるさとのまつもあれたるやとなれや　桑子
千載賀　　ふるさとのまつもあれたるやとなれや　桑子

月清集上　　濁る世もおなじ心にすみのぼれ　清原元輔
後撰哀古　　小山田の水もるまでよかくうゑし　右大臣
彰拾哀四　　小山田の水もるまでよかくうゑし　清慎公
拾遺地名　　かくうゑしかひありてやすみ侍ぬ　紀伊
風雅神祇　　ふるさとのまつもあれたるやとなれや　桑子
彰拾哀一　　ふるさとのまつもあれたるやとなれや　桑子
月清集下　　神風やいせの濱荻折しきて　権中納言実宣
彰古賀　　水無瀬川なほ行末はとをけれど　右大臣
彰古雑神　　おもひおきてしかひありてすみ侍ぬ　清慎公
後拾遺雑　　山川をうつす鏡もあるものを　紀伊
後拾玉集二　　山川をうつす鏡もあるものを　紀伊
彰古冬　　いせの海のそこの濱の入江より　太上天皇
彰拾秋上　　天河うつすみなせをふかければ　権中納言実宣
彰後春哀　　君こむとおもひもかけぬ山ざとに　院御製
風雅雑下　　数ならぬ身のうきをしるなみだ川　権中納言実宣
彰新勅冬　　あふ事のたえてしなくは　後二条院御製
古今冬　　唯月とたのむ山ぢもうき物を　権中納言実宣
拾遺恋四　　三四月あまれる水のうき草の　後二条院御製

風雅な　みそ川にうれひて立てくみもて
新みな　水上よりさかのぼりくる谷川の水
拾玉集七　はしり風とのほこりきしの柳
古今巻六　うれひてくむ山川の水
新古最傷　かなしびつつこの家のそのかみの
金葉巻三　一本とかのもきしに行乃
続撰巻　芦原乃下ろくいくれ
古今巻三　白川のきよくもすめて庵きは
新葉巻一　立三川山ぶきのもゆる時
新葉巻三　泊まれ今こそ汲くなるも
続後拾秋上　まれのこあるをあるの
新後拾巻一　大井のわる須我のつるれ
古今巻　水れ須のうてまきとひ
新続古巻　春雨今こそもくれ
新拾巻三　おほのまれてうれ
新勅巻　山川のそこと今こそ
新千巻三　きみひしまきれ
新葉雑三　松生まをすれやなのもん須川

順徳院御製
土佐門院御製
桜寒使の通
平貞文
平中納言定
光孝天皇御製
院御製
延喜御製
菅原道真
院御製
源養父
丹後守為
院御製

須磨　なくる川うつみをもわれし
続後撰巻　たつもうつ砧の音をきくなへに
金葉巻　もろともにあはれをしれる
玉葉雑三　もる雲のあまりみまくも
夕雪
続後撰巻三　世をうてすそとやまれ
新古冬　なせ夏きつうらぶれ
金葉巻下　ものまでかうちをもきり
続拾巻下　ほくとれの名のさやの
新千冬　この川そわびほせもうあ
新続古巻三　きまをの神三川しまを
古今巻四　須川のうもむとへうを
新後拾雑上　春もうてそうて七夕祭り
古今巻一　みうきもうの風のあるを
新千巻三　思のうきにうれまを
新後拾雑秋　神り九月もも風平絵の
古今巻一　かうれ新とあるを何ひ古

後撰 巻二　ふりしきてそそぐものしもつれなくも　枯實利行
殘集 雜巻　もろともにおきゐしきくのうすごほり　如願法師
新古今　山川の音ばかりこそ聞えけれ　若狹国風
壬生二荒下　ありとのみ川をぞ人はながめける
同上　夜川なみもうちぬるなべき
新拾 巻二　水のうへもきしの岩根も氷りつつ
殘集 雜巻二　いづの海のそこも氷流れの
月清集上　昔より三國にうたふ名のみにて
新拾 巻二　人もれぬ心のうちぞ知られける
殘集 巻二　ふるさとの庭の松風ふきしをれ
後撰 巻二　そこはかとなく物ぞかなしき
新古今 雜中　ひとりぬる山路の袖の露ばかり
新葉 巻二　かはらぬ色を見せよとぞ思ふ
新後撰 雜上　雜波うち寄するたびに引網の
新拾 冬　なれば浦のうら風
殘集 冬　世をわたるたよりもなしと思ふにも
新後拾遺 雜秋　なほ恨めしきわが心かな
殘拾 冬　若宮大武重氏
古今 秋下　山川風のかけてのみ
新後撰 秋下　うつろふ秋の色ぞ寂しき
新拾 秋下　おのれのみ山のしづくに袖ぬれて
新葉 雜上　なほ恨めしきわが心かな
古今 巻一　秋風のふくにしたがひ
拾玉集三　うつろふ秋の色ぞ寂しき
新古今 秋上　夢路や久米路の橋の通ひ路を
續古今 雜上　うつろふ秋の色ぞ寂しき
拾玉集二　ひとりぬる山路の袖の露ばかり
同七　つらの雁よいかにせよとて
同四　なほ恨めしきわが心かな
風雅 秋下　夜もすがらしぐれかねたる

新古今 巻六　ほどもなくせきもとどめぬ山川の　後京極攝政前太政大臣
新拾 雜春　名にしおはば逢坂山のさねかづら　藤原定家朝臣
新古今 雜上　谷にのみ落ちてながるる山川の　後京極攝政前太政大臣
新古今 雜上　世にふるながめせしまに　入道前太政大臣
殘集 雜春　春風やとくらん谷の氷とく　後京極攝政前太政大臣
新後拾遺 雜秋　木葉ちる宿はまばらになりゆけど　藤原為家朝臣
殘拾 冬　若くだる清き流れのみなれ河　後京極攝政前太政大臣
古今 秋下　山川風のかけてのみ　春宮大夫公重
新後撰 秋下　うつろふ秋の色ぞ寂しき　藤原定家朝臣
新拾 秋下　おのれのみ山のしづくに袖ぬれて　後京極攝政前太政大臣
新葉 雜上　なほ恨めしきわが心かな　後京極攝政前太政大臣
古今 巻一　秋風のふくにしたがひ　春宮大夫公重
拾玉集三　うつろふ秋の色ぞ寂しき　慈鎮和尚
新古今 秋上　夢路や久米路の橋の通ひ路を　後京極攝政前太政大臣
續古今 雜上　うつろふ秋の色ぞ寂しき　大江嘉言
拾玉集二　ひとりぬる山路の袖の露ばかり　慈鎮和尚
同七　つらの雁よいかにせよとて　後京極攝政前太政大臣
同四　なほ恨めしきわが心かな　相模
風雅 秋下　夜もすがらしぐれかねたる　関白左大臣

新千載三 [illegible] 妹背山 [illegible]

新続古今秋下 [illegible]

新続古今 [illegible] 源光正

新後拾遺秋下 [illegible] 源義将朝臣

続千載冬 [illegible] 今上御製

拾玉集四 [illegible]

続千載三 [illegible] よみ人しらず

拾遺自外上 [illegible]

続後撰春下 [illegible]

新続古今雑中 [illegible]

続千載三 [illegible]

玉葉恋三 [illegible]

詞花恋上 [illegible]

壬生二集下 [illegible]

新千載四 [illegible]

新拾遺恋三 [illegible]

風雅雑下 [illegible]

続後撰二 [illegible]

続後拾遺 [illegible]

千載雑中 [illegible]

続後撰恋四 [illegible]

新古今 [illegible]

新後撰恋四 [illegible]

月清集下 [illegible]

新拾遺恋二 [illegible]

新続古今恋二 [illegible]

新後撰恋二 [illegible]

拾玉集七 [illegible]

新拾遺雑上 [illegible]

山家集上 [illegible]

拾玉集三 [illegible]

新後拾遺冬 [illegible]

拾遺恋六 [illegible]

月清集上 [illegible]

拾遺恋三 [illegible]

続後撰秋下 [illegible] よみ人しらず

後古秋下　まれなきけとも思ふるさとにそれ　たちかへりてもひとりのみなん　紀友則

新古恋上　我かくはまたえしらぬ山すみのあくかれつ　なかくしるしありてあふことそなき　紀貫之

同春下　桜咲くとほ山とりのしたりをの　なかくし日もあかぬ色かな　太上天皇

新後撰恋六　待つしもいつくもなくやおもひけむ　なかく今はとうらみけりせし　従三位成子

新葉恋一　わかれちのあくるつらさの山の端に　なかく人のいのちをもしらぬ　福恩寺前関白

新後拾遺秋　急きつる秋は来ぬらむ草の原　なかくもねぬ夜の月もかな　藤原行綱

千載雑上　いつとなく思ひあかしの浦人も　なかくのおもひをつくしつゝ　藤原道信朝臣

新勅恋　今はやかてはいつかよりまくらせぬ　なかくあふこともわすれぬはや　寂円成家

新後拾遺春　待つかねて我ゆくかたの花をかそ　なかくさくらのあふにけり　西宮左大臣

後後拾恋　人はいさ我のみ知りし初しくれ　なかくも物を思ふなりけり　律師家

壬生二条中　雲の上やそてのきは竹の生ひすゑの　なかくも身を思ふ心かな　[illegible]

新古恋　郭公なくや五月の空はれて　なかくはうちにこそ思ひけれ　権中納言公経

新拾雑上　いつくにかうきみを入れて住まむ　なかくさきゆくすゑをもけふは　信正権大臣

後後撰恋　かくとたにえやはいふきのさしも草　なかくにもあはてやみなむ　権大納言忠信

新拾恋二　いつとても身にしむ秋の夕暮に　なかくへてもおもひけるかな　藤原範宗朝臣

続拾雑中　待つ事のはかなくもあるか山の端に　なかくはやてもこそかなしき　心円法師

新葉雑　雲の行月の光もさやかにて　なかくいまこそかへりみるらめ　妙光寺内大臣母

新続古恋二　いはまもるやまのしたみつ　なかくいふてもかひやなき世の　醍醐院内大臣

新後古恋二　思へともいふかひもなくかはりゆく　なかくへてのこる心の身をなけきつゝ　平光俊

後撰恋五　いつしか海のあまのはてなくそれとも　なかくへてのちのうきなこそかなしけれ　源莫明朝臣

後後拾哀傷　おやのおもひをいかにしてか今日もまた　なかくへてみるはかなしき　従二位為子

新後恋三　世をそむく後の世とてもたのまれす　なかくへてあらむかきりを　法眼源兼

拾遺恋下　これもいかにか思ひかねけむ　なかくへて海の世をはかなみ　大僧正慈鎮

新古雑下　あるまてに昔のことを思ひ出て　なかくへて海の世のつらさに　西行法師

後後拾雑　数ならぬ身をいかにせむ世の中に　なかくへてよに思ひつきぬらむ　成尋法師母

新後拾恋　思ひつゝ浦のあまのなかれ木に　なかくへてそ世にあるかひもなし　[illegible]

同恋二　命をもなにゝかけてか人の心　なかくへてそもたのむとはなし　源宣方

後後撰雑　うらむなよ思ひをしらぬ世の中に　なかくへてやみむあはれともいはん　よみ人しらず

拾玉集五　あまの川月の光をまちわひて　なかくへてそ世にもあらむ　公経公

後千恋二　つれなきをなけかんとてもあはれしる　なかくへてそすきし世のあはれ　源親長朝臣

拾遺恋上　ひとつてに命のつゆを今はたゝ　なかくへてそよしあらばこそ　藤原清輔朝臣

後後恋二　命にまたかへてもかへりみよ　なかくへてもたのむ世の恨み　藤原清輔朝臣

同　忘れぬやさすかにいふ津の国の　なかくへてもおなしみちのく　後深草院少将内侍

後拾遺雑二　さりともと思ひしそらや津の国の　なかくへゆくへも涙にむせぶ　中宮内侍

拾玉集四　かなしさのなにそや涙もとまらぬに　なかくへゆくへも知らぬ身なりけり　[illegible]

千載恋四　夢のうちにあふとみえつる津の国の　なかくへいはゝと思ひけるかな　藤原為実

山の集上　いとゝしも秋なりぬれ
拾玉集六　いそがれすしもりくまれ
同一　ものゝやうに花もちるめり
新拾雑中　かくもつゝの世もみるまで
拾遺愚草　雅経
新勅雑下　風雅雑上　貸院宮御歌
残月の雁雑上　大僧正慈円
長秋詠藻　中務卿宮家三首
勅撰雑一　古今雑上　寄月述懐
勅撰雑一　後古今上　人もまた
拾玉集三　まつのとぢやすらふ月
月清集下　ちぢのもとゆかしき
壬生二品　苔さへもしげりはてぬる
拾玉集七　ことのおもひでもなく
残月の雁上　なりぬるものを
新古雑上　いくあらし
風雅雑中　きく袖よりそあはれ
拾遺集六　絹々なれやてころに
残月の雁上　紅の世をもれもるも
拾玉集四　をしへしもまさ
拾遺愚草　中院前右大将
残月の雁上　中月花
新古雑下　大僧正慈円
風雅雑上　和泉式部
勅撰雑一　みあれの雲

古今雑上　いくあらしふきぬる
拾玉集一　つの分もるかくれ
風雅雑上　人のこゝろのまゝ
拾玉集二　もちの浦やうつろ
乙無名抄　ふの松原
同六　拾玉集六
新古雑上　ふせるかたかけて
風雅雑中　そやそのつゝみ
拾遺集六　きく袖よりそあはれ
残月の雁上　絹々なれやてころに
残月の雁　紅の世をもれもるも
拾玉集四　をしへしもまさ
拾遺愚草　中月花
残月の雁上　大僧正慈円
新古雑下　和泉式部
勅撰雑一　みあれの雲

新古今二　いつねとりそへてやりこしあきの夜の　惟方朝臣女房
須磨　あふ事をうらみ顔にてなく虫の　よりてぞ袖は露けかりける
拾玉集三　ふしみ山ふもとの里にすむ人は　いつもこころの秋の夕暮
新勅三　深草の野辺の秋風身にしみて　うづらなくなり夕暮の空
総角　あはれなる浦山の里人数ならぬ　いつもこころの秋の夕暮
新勅秋上　いつもこころ物あはれなる夕暮を雲ゐの　月もとりそへてやらればこころの
山家集下　いつもこころそらもみだれぬこころの　秋の夕暮
多聞
壬生二品下　さまの海やかぜの風のうちにも　いつもこころ秋の夕暮
新古今一　いつもこころ西へそ春の　夕暮
新勅冬　いつもこころみ吉野の山の　夕暮
壬生二品上　おもひたえぬる海士のかるもの　いつもこころ秋の夕暮
同　うきくさのうねのさわぎもいつもこころ　秋の夕暮
金葉秋　松のねのさわがしからぬ　いつもこころ秋の夕暮
拾遺雑上　ありすもるかすみの　いつもこころ　隆源朝臣女頭来
新拾翠抄　さまざまの花ちりしきあはれ　いつもこころ　権中納言匡房
続古今秋上　さそはるるこころ人のうへ　いつもこころ　前大納言忠家
須磨　なるこのやうらさびしき　いつもこころ　前権中納言定家

壬生二品上　如月ばかり月おもしろかりけるよ
拾遺雑春　あちきなく世の中に秋やはあるとだ
拾玉集三　ひとり寝る秋の夜ごとの月なれや
新勅雑上　世中を思ひすてつつ山ふかみ
玉葉秋上　うきふしをなげきこりつむ秋の山
後拾遺雑二　世中を思ひすてつつ山ふかみ
拾玉集三　もろともにあはれとをしの月清集
月清集　ひとり寝る秋の夜ごとの月なれや
拾玉集二　見るとなくながめやすらひ秋の月
同三　年ふれど月や昔と思ふらん
同雑上　池水はみぎはの氷ふかけれど
続後古今三　月影ぞ袖にくだけてやどりける
拾遺雑上　月影のいたらぬ里もなけれども
拾玉集三　ながむとはなしに物思ふ人乃
新後拾遺雑上　今宵こそ月もすみけれ雲はらふ
拾玉集四　かりそめのやどとはしらで住みけん
同七　吉野山ふもとの雲やうすからん
新後古今三　ながむとて雲にはるるも惜しかり
千載雑上　ひさかたの月のみやこをいでしより

小一条院御製
源宰上人
文保更衣
常盤井入道前太政大臣
藤原俊成卿

新千雑秋　おほゐ川波立わたる音[illegible]　[illegible]　崇徳院御製

新後秋下　嵐ふく伊駒の山の雲晴れて　なかゐの浦にすめる月かけ　権中納言為信

拾玉集七　君か代は千年[illegible]　[illegible]

拾遺恋　[illegible]　[illegible]

新千恋一　[illegible]　[illegible]　伊勢

新拾賀　[illegible]　[illegible]

拾玉集五　[illegible]　[illegible]　参議雅経

玉葉賀　君か代は[illegible]　[illegible]　前大納言公経

新古雑下　[illegible]　[illegible]　定家卿

新勅撰　山[illegible]　[illegible]　貫之

拾玉集二　[illegible]　[illegible]

新続古恋三　此世[illegible]　[illegible]

続後撰恋三　[illegible]　[illegible]　後醍醐院御製

続千恋一　[illegible]山の[illegible]　[illegible]　従三位行能

新千恋五　[illegible]　[illegible]　前僧正実伊

風雅恋三　八[illegible]　[illegible]　光俊朝臣

新千恋二　我[illegible]　[illegible]　前大納言為家

古今恋三　[illegible]今宵[illegible]　[illegible]　今出河院近衛

　　　　　　　　　　　　源宗于朝臣

拾遺雑恋　[illegible]　[illegible]

続後拾恋二　[illegible]　[illegible]　従三位[illegible]

後拾遺恋三　[illegible]　[illegible]　前大納言[illegible]

続拾雑中　[illegible]世の[illegible]　[illegible]　従三位為兼

風雅夏　[illegible]　[illegible]　正三位隆教

拾玉集四　[illegible]松の[illegible]　[illegible]

同　[illegible]月[illegible]　[illegible]　忠岑

新後拾夏　[illegible]　[illegible]　後九条[illegible]

風雅恋五　[illegible]　[illegible]　後鳥羽院

新続古秋　[illegible]　[illegible]　山部赤人

続古恋一　[illegible]　[illegible]　貫之

風雅雑中　[illegible]　[illegible]

続後拾春　[illegible]　[illegible]　前参議教長

拾玉集一　[illegible]山田の[illegible]　[illegible]

拾遺恋　[illegible]　[illegible]　藤原清正

続千載秋　[illegible]　[illegible]　従三位為氏

新千秋下　[illegible]秋の[illegible]　[illegible]　民部卿為家

新拾恋四　[illegible]　[illegible]　前参議為定

拾遺恋五　天のはまもゆきをそうくうみ
新拾遺二　かりそめもしほたれつゝ袖の浦
経通　ぬるをあやしとやまん
壬生二品中　あひおもはゝあふさかやまの
新千載上　月をみてあかぬこゝろは秋の夜の
後拾遺雑二　さえわたる山ぢの雪も消ぬまく
新後拾遺雑二　月もまだ
新後拾遺雑下　みてやこひあやまちとやいはん
新後拾遺雑下　山もさぞ庵の後をおもふらん
新古今雑上　あまもさぞ
新後拾遺雑二　かりそめの
新葉雑上　なみまくらかたしきわびぬ
後拾遺雑二　あやまちて
後拾遺雑二　行会法師
拾遺雑賀　ちとせまで
壬生二品中　君が代は
拾遺雑賀　行会法師
拾遺雑賀　萬秋門院

新後拾遺雑下　なみだのみ成ける
新葉雑上　なみのうへにみるよりも
後拾遺雑二　なるこのひとこゑ
後拾遺雑二　なみのうへに
後拾遺雑二　なるこのひとこゑ
新後拾遺雑二　なみのうへにみるよりも
新葉雑上　なみまくらかたしきわびぬ
後拾遺雑二　あやまちて
後拾遺雑二　行会法師
拾遺雑賀　ちとせまで
壬生二品中　君が代は
拾遺雑賀　萬秋門院

新後拾遺雑二　なるこのひとこゑ
新古今雑上　あまもさぞ
新後拾遺雑二　かりそめの
新後拾遺雑下　みてやこひあやまちとやいはん
新後拾遺雑下　山もさぞ庵の後をおもふらん
後拾遺雑二　さえわたる山ぢの雪も消ぬまく
新千載上　月をみてあかぬこゝろは秋の夜の
後拾遺雑二　ぬるをあやしとやまん
壬生二品中　あひおもはゝあふさかやまの
新拾遺二　かりそめもしほたれつゝ袖の浦
拾遺恋五　天のはまもゆきをそうくうみ

金葉雜
新古今
後拾遺
後拾遺抄
玄葉
後拾遺
新葉雜上
壬生二品中
風雅
新拾遺
新後撰雜
後撰雜中
風雅

月清集下
新古今
山家集下
新後撰雜上
金葉雜
長秋詠藻
拾遺要書
新後撰
後古今
拾遺要書
古今秘上
新古今
拾玉集三
月清集
拾遺愚抄
後古今
山家集下
後撰雜中

風雅雜中　もろこしの人のこととおもふらむ秋の夕の月
同上　秋ふかき夜にもあるかなくれなゐの
新拾上　なかれもあへぬ紅葉にぞ見る
月清集下　山里はかなき夢のかよひ路を
拾遺春上　ありあけの月
山家集上　ありあけの月
拾玉集四　ありあけの月
新勅撰冬　ありあけの月
拾遺集雜上　月うの時ばかりに
後拾撰雜　光なき月
新古雜上　ありあけの月
同秋上　物おもふそでから雨や
風雅秋中　ありあけの月
拾遺集四　山ぢとよもの秋の夜ぞふかき
新拾秋上　もろともに秋の夜ふけぬ
新古雜下　ありあけの月
新古秋上　ありあけの月
拾玉集二　ありあけの月

遠信第八

後二條院
雪深き山の奥にも
桜咲きぬと
春風の
なかれもあへぬ

新勅撰雜上　なかれもあへぬ
拾遺春雜　かきくらし流れもあへぬ
同上　なかれもあへぬ
同下　なかれもあへぬ
同中　なかれもあへぬ
拾玉集一　なかれもあへぬ
月清集下　なかれもあへぬ
玉葉夏　なかれもあへぬ
拾遺夏雜　なかれもあへぬ
新撰雜二　なかれもあへぬ
玉葉雜一　なかれもあへぬ
拾遺夏雜　なかれもあへぬ
後拾遺雜二　なかれもあへぬ
拾遺別　なかれもあへぬ
同五一　なかれもあへぬ
拾遺夏外　なかれもあへぬ
玉葉雜上　なかれもあへぬ

進之

家隆卿家
百首歌
土先
法華堂
馬内侍
つくしより
のぼりて
みやこの
ほとりを
すみかと
なして
ながめ
ける
ころ
ほととぎす
を
聞きて
よめる
歌
花ぞのの
法皇
御幸
ありて
人々
歌
たてまつり
ける
ついでに
よめる
歌

玉葉秋下　ゆく秋のわかれて井山 なかなかにかゝる[illegible] 後深草院少将内侍

後撰秋下　かきくらし[illegible] なかなかに[illegible] いせ

新勅撰羇旅　[illegible] なかれ[illegible] 恵慶法師

後拾遺雑上　あさ[illegible] なかれ[illegible] 按察使資平

新後拾遺秋上　[illegible]海[illegible] なかれ[illegible] 今上御製

新古今雑中　今ゆくに[illegible] なかれ[illegible] 藤原秀能

続後拾遺冬　雁[illegible] なかれ[illegible] 二条院讃岐

同恋上　[illegible] なかれ[illegible]

古今誹諧　[illegible] なかれ[illegible] よみ人しらず

新葉恋　[illegible] なかれ[illegible] 郭公[illegible]

続拾遺秋上　[illegible] なかれ[illegible] 従三位[illegible]

新続古今冬　[illegible] なかれ[illegible]

新古今恋一　[illegible] なかれ[illegible] 人丸

玉葉恋四　[illegible] なかれ[illegible] 源[illegible]

新続古今雑中　我[illegible] なかれ[illegible]

風雅恋二　[illegible] なかれ[illegible]

後撰雑一　古郷の[illegible] なかれ[illegible] 大輔

風雅雑上　[illegible] なかれ[illegible]

新後拾遺春　[illegible] 源[illegible]

拾玉集一　[illegible] なかれ[illegible]

拾遺雑上　[illegible] なかれ[illegible]

月清集上　[illegible] なかれ[illegible] 月や[illegible]

続後撰雑中　秋の[illegible] なかれ[illegible] 月[illegible] 土御門院小宰相

続拾遺雑三　[illegible] なかれ[illegible] 赤染衛門

玉葉旅　[illegible] なかれ[illegible] 安嘉門院大弐

新古今恋下　[illegible] なかれ[illegible] 寂蓮法師

同雑下　[illegible]月[illegible] なかれ[illegible] 皇太后宮大夫俊成

拾遺愚草上　[illegible] なかれ[illegible]

新後拾遺雑上　[illegible] なかれ[illegible] 後光明照院入道前関白太政大臣

続後拾遺雑上　[illegible] なかれ[illegible] 後人[illegible]

新続古今雑下　[illegible] なかれ[illegible] 二品親王守覚

後撰恋六　[illegible] なかれ[illegible] よみ人しらず

新後拾遺秋上　[illegible] なかれ[illegible] 左近[illegible]

新拾遺羇旅　[illegible] なかれ[illegible] 贈従二位為子

新後拾遺恋二　[illegible]海[illegible]衣 なかれ[illegible]

壬生二百上　[illegible] なかれ[illegible] 左大弁経継

拾遺哀傷上　ありわびぬ君はへだてぬ
新後拾秋下　浪よ月うらみもうらめ人もうし
拾玉集七　旅衣雲もすそひもあかしかね
同　神よ海さはれ業ふかき罰
新古覇旅　白雲はいくへ乃峯をも越めとも
同清集下　鳥乃海よ海そら浮藻さそ
新後拾覇　苔松あひにくるもちそ
拾遺哀下　あはれぬ世ぬくさをも
新後拾春　浪をみつくしの里もらそ
若菜下　こひしき浦人のこととそ
拾遺哀中　見ぬかたもあらやとも
玉葉旅　海さらぬものそ渡らん
拾玉集一　ありしやうに山をよひきて
拾遺哀中　嬉うらし浪そ
長秋詠藻　さやうもの忘れ小部
旅宮撰歌　九重に老あなかし
拾遺哀中　名海てうらみ
新後拾春　又人乃とめもうし
同清集上　浦ひとつ神の吹
新後撰冬　花落るみねの雪朝
拾遺哀中　みめもしきまし
拾遺雑賀　鳥羽乃やうにうらみ
拾遺哀中　風雅朝中　今かれぬもの
拾遺雑賀　玉葉雑三　山里はうらひ
拾遺哀中　新後拾秋下　西葉旅
新後撰上　神乃うへ雲
新後撰上　林の風
拾遺雑中　又人乃とめ
同清集上　浦ひとつ神の吹
新後撰冬　花落るみねの雪朝
拾遺哀中　みめもしきまし
拾遺雑賀　鳥羽乃やうにうらみ
拾遺哀中　風雅朝中　今かれぬもの
拾遺雑賀　玉葉雑三　山里はうらひ
拾遺哀中　新後拾秋下　西葉旅
新後撰上　神乃うへ雲
新後撰上　林の風

新葉恋下 [illegible]なれ[illegible] 今出川右大臣
風雅雑上 [illegible]なれてもよせぬ[illegible]の上の月 二品法親王[illegible]
新続古今賀 [illegible]なれてみき[illegible] 従一位[illegible]
新葉雑下 [illegible]なれてしも[illegible] 後醍醐天皇御製
壬生二百上 [illegible]なれて[illegible]
拾遺愚草 [illegible]なれて[illegible]の月
玉葉釈教 [illegible]なれて[illegible] 後白河院御製
続千載恋三 [illegible]なれても[illegible] [illegible]
壬生二百上 [illegible]なれても[illegible]
玉葉恋六 [illegible]なれて[illegible] 俊成
新葉恋二 松川の[illegible]なれても[illegible] [illegible]
拾遺愚草 [illegible]なれても[illegible]
同 [illegible]なれても[illegible]
新後拾遺羈旅 [illegible]なれても[illegible]
新勅秋下 [illegible]なれても[illegible]
続後撰秋中 [illegible]なれても[illegible]
新古雑下 [illegible]なれ[illegible]月[illegible]

玉葉恋三 [illegible]なれ[illegible] 従三位[illegible]
拾遺員外 [illegible]なれし[illegible] 中務[illegible]良経
新葉雑上 [illegible]なれ[illegible] 祝子内親王
風雅恋四 [illegible]なれ[illegible] 権中納言[illegible]
新続古秋下 [illegible]なれ[illegible] 御製
拾遺愚草上 [illegible]なれ[illegible]
新葉雑下 [illegible]なれ[illegible]
新古恋四 [illegible]なれ[illegible]月
総角 [illegible]なれ[illegible] 伏見院御製
新拾恋四 [illegible]なれ[illegible]世[illegible]
拾遺愚草 [illegible]なれ[illegible]上の月 永福門院
続千恋四 [illegible]なれ[illegible] 権中納言[illegible]
新千冬 [illegible]なれ[illegible] 従三位為子
玉葉恋五 [illegible]なれ[illegible]
拾遺愚草上 [illegible]なれ[illegible]
同 [illegible]なれ[illegible] 大宰大弐重家
風雅雑下 [illegible]なれ[illegible]
後拾遺雑三 [illegible]水[illegible]なれ[illegible] 権中納言[illegible]朝[illegible]

新葉雑上　今もかはらぬ和歌の浦にて　なれ[illegible]風[illegible]　[illegible]

新後古雑上　忘れめや六代につかへて君をたに　なれ[illegible]　前大納言[illegible]

風雅雑中　もろともにすむ[illegible]　なれ[illegible]　前参議[illegible]

同雑下　天の川とわたる舟のかちのはに　なれ[illegible]　備前

新後拾春　思ひあかなれる花をみて　なれやそち[illegible]　頓阿法師

壬生二百上　[illegible]　なれ[illegible]　[illegible]

新後古今　猶うしも今いかにせよと[illegible]　なれ[illegible]　後光明照院前関白左大臣

風雅集下　ほの[illegible]　なれ[illegible]のかけの　前大僧正慈鎮

後拾雑五　世の中の[illegible]深山のおくの花　なれ[illegible]　法印[illegible]

山家集下　思ひきやみやこの[illegible]　なれ[illegible]　[illegible]

千載羈旅　草枕[illegible]　なれ[illegible]　[illegible]

月清集下　古[illegible]　なれ[illegible]　[illegible]

玉葉旅　旅ねする月[illegible]　なれ[illegible]　宜秋門院丹後

壬生二百中　[illegible]人の[illegible]　なれ[illegible]　前中納言定家

新後拾秋上　里の[illegible]衣[illegible]　なれ[illegible]　[illegible]

拾玉集七　秋の月[illegible]今[illegible]入　なれ[illegible]　[illegible]

玉葉秋上　[illegible]　なれ[illegible]　[illegible]

新千雑上　[illegible]　なれ[illegible]の[illegible]　[illegible]

拾玉集六　[illegible]　御[illegible]　なれ[illegible]

長秋詠藻中　[illegible]　なれ[illegible]　[illegible]

新千恋一　[illegible]　なれ[illegible]　後京極摂政

新古恋二　あさ波の[illegible]　なれ[illegible]　前大納言為明

拾遺恋中　[illegible]　なれ[illegible]　前中納言定家

拾玉集六　[illegible]山[illegible]　なれ[illegible]

古今秋上　たか秋にあらぬものゆへ女郎花　なそ色にいてゝまたきうつろふ　つらゆき

同誹諧　秋の野に妻なき鹿の年をへて　なそわか恋のかひよとそなく　よみ人しらす

拾遺恋三　ことならはおもはすとやはいひはてぬ　なそ世の中の玉たすきなる　よみ人しらす

同　[illegible]　なれ[illegible]　人丸

新古恋二　[illegible]人の[illegible]　なれ[illegible]　[illegible]

新千恋三　[illegible]　なれ[illegible]　[illegible]

新後撰恋三　[illegible]　なれ[illegible]　[illegible]

新後恋上　みやこ人の[illegible]　なれ[illegible]　後嵯峨院大納言

壬生二百上　あさ緑[illegible]　なれ[illegible]　[illegible]

新後撰恋　[illegible]　なれ[illegible]　和泉式部

拾遺貞外上　[illegible]秋[illegible]　なれ[illegible]　[illegible]

新撰恋　[illegible]　なれ[illegible]　よみ人しらす

詞苑名　松川のいくのとまりつゝ　勇絵ぬき
拾玉集二　みぎのくもゐにて咲ぬれ
拾遺愚草　ふるさとへいそぐ帰雁
拾遺愚外上　なきわたるかりの
千載名　岩ねゆく谷の水のこほりとき
拾遺賀　君が代のあまねきほどぞ
続後拾賀　思ふ世をまつにかゝれる
拾遺愚草　時ぞうれしき
同中　ゆきふる枝のさくら
拾遺愚外　ちるとはなのみ見えぬ
風雅雑上　ものをおもふ袖の雫
同秋上　山のの岩井の水
拾玉集二　すみよしの
拾遺愚草　やまぶき
壬生二荒中　やまぶき
拾玉集七　宿の
拾遺愚外　行くらん
続後拾賀　思ふ世の
千載名　岩ねゆく谷の水のこほりとき
拾遺賀　君が代のあまねきほどぞ
拾遺愚外　ちるとはなのみ見えぬ
風雅雑上　ものをおもふ袖の雫
同秋上　山のの岩井の水
拾遺愚草　すみよしの
壬生二荒中　やまぶき
拾玉集七　宿の
拾遺愚外　行くらん
続後拾賀　思ふ世の

拾遺名　松をのみ
拾遺愚外　賀をぞ
月清集　ちるさくら
壬生二荒中　石ぢ
同上　松のや
山家集上　ちるさくら
拾玉集七　うれしく
名義抄　山深み
拾玉集三　ちるさくら
拾遺名　ちるさくら
風雅名　時ぞ
拾玉集七　ちるさくら
新名　ありてふ
同名　ちるさくら
新拾名　人もをし
続拾名　かくてぞ
壬生二荒上　月いづ

新葉集　　せきもりの松の下陰　　光近大納言
拾遺玄二　　かりそめの夫婦ものとも
拾玉集七　　ちぎりおきてし
同七　　紅葉を
新後古今　　旅人のなみだの
拾玉集二　　ちぎりも思ひわくかたも
同七　　小萩原
同　　萩の枯葉の
拾遺要草　　杜川やうきもの
拾玉集六　　ちぎれ侍きとや
同一　　旅ごろも
壬生二品上　　氷室山
拾遺要草　　松の外山
拾玉集三　　つくりおきし
同六　　ちぎりおきてし
山家集下　　袖の
月清集上　　ちぎりおきてし
拾遺負外　　むすぶまの

隆信朝臣

拾玉集六　　ちぎりおきてし
拾遺要草　　氷室山
壬生二品中　　あかつきを
拾玉集一　　東路の
拾遺六負並　　あらし山
拾玉集四　　袖のうへの
山家集上　　思ひの
拾遺玄四　　ちぎりおきてし
伊勢物語　　ちぎりおきてし
拾玉集四　　ちぎりおきてし
拾遺要草　　ちぎりおきてし
拾遺新春　　雪ながら
拾玉集七　　ちぎりおきてし
山家集下　　月も松の
拾玉集二　　砂のちぎりおきてし

右京大夫義孝
右京長雄

拾遺雑春　　おく山にたつそめぬ衣手は
拾遺友　　我宿ゆうくうの花の雪
新拾友　　交人乃雑つ衣手に
千載友　　光陰もれぬ外も花の雪
新続古友　　山陰のそこもかさうき
続古雑下　　夏ゆけば山陰もなし
千生二春上　　風ふきとくも残雪
拾遺春上　　法師とうとうとうとう
金葉雑下　　雪ふれば冬ごもりせる
千生二春上　　庭松乃雪をも花と
拾玉集一　　遠さとうとうとうとう
新拾雑上　　松風の夕日うとうとう
金葉雑上　　うとうとうとうとう
新古雑上　　和歌の浦あしべ
新古今雑上　　あひなきものとて
新拾雑秋　　袂乃雪
続古今　　神祇歌
続拾雑上　　
続後撰雑上　　
続千載雑上　　
続拾遺雑秋　　
新拾遺雑秋　　
続千載雑秋　　
月清集上　　
新古今四　　
新千載一　　
続後撰冬　　

続後拾雑秋　　歌ふまの雪をかきわけて
拾玉集四　　百首歌たてまつりし時
金葉雑上　　
千生二春中　　
風雅友　　
続古今　　
続拾雑上　　
続後撰上　　
続千載雑上　　
続拾遺雑秋　　
新拾遺雑秋　　
続千載雑秋　　
月清集上　　
新古今四　　
新千載一　　
続後撰冬　　

なるまの雪をかきわけて
なまし中山乃
なし世にふるもの
なるまの浦あしべ
なし世にふるもの

松中納言公雄
光明峯寺入道
為教卿女
武家両執
平貞時室

神祇歌
大江貞重

藤原為家
参議雅経
雅経

新古拾遺二　一うち霧れてなかぬ里の雁がねも聞ゆる秋の夕暮
同玄三　あるまゝに霧れまさりゆく秋の夜の月ばかりこそ更行空は
玉葉旅　那須野の原の露ふかき秋の末に分入る袖の色ぞ寒けき
拾遺愚草　夕されば野辺の秋風身にしみて鶉鳴くなり深草の里
新後拾遺　深山路や秋はいかなる色ならん紅葉ふきおろす峯の松風
同秋上　いかにせん秋の形見の初しぐれ我が身ふりゆく袖の涙を
新千雑中　なかなかに袖の涙を知らずとも秋はいかゞは過ぎざらん
拾玉集一　秋風の吹きうらがへす葛の葉の露もとまらぬ色ぞ悲しき
拾遺愚草中　夕されば野辺の秋風身にしみて鶉鳴くなり深草の里
拾玉集四　ゆく秋の名残しばしもとゞめばや雲のはたてに残る夕月
新後拾遺一　神の秋やしろ〳〵に月冴えて八十の湊に波ぞ寄すなる
後拾遺二　つくづくと秋の夜ふかき窓の内に我が身ひとりの月ぞ更行く
新後拾遺二　絶えもせず通ふ心の末ながら人目ばかりの関ぞ悲しき
拾遺愚草上　今ぞ知る人目ばかりの関ならで我が身ひとりの秋の夜の月
新後拾遺二　なぐさめよ人目ばかりの関ならで我が身ひとりの秋の夜の月
新勅撰雑一　なぐさめよ人目ばかりの関ならで我が身ひとりの秋の夜の月
後拾遺雑二　なぐさめよ人目ばかりの関ならで我が身ひとりの秋の夜の月
玉葉雑二　水無月のてる日もとゞく山陰の岩もる清水すゞしかりけり

新古今冬　吹きまよふ風もあとなき雪の上に跡うち添ふる鶴の一こゑ
新拾雑上　時しもあれ秋より後の雁がねを聞くたびごとに袖ぞ露けき
新古今冬　さゆる江に汀の千鳥うちわびて夜半に波こす浦の松風
後拾雑四　冬の夜も更けゆくまゝに高砂の尾上の松に風ぞ吹きそふ
風雅冬　ふけぬなり外面の竹に雪おちて窓うち叩く霰まじりに
後拾雑四　冬の夜も更けゆくまゝに高砂の尾上の松に風ぞ吹きそふ
新撰菟玖波　ふけぬなり外面の竹に雪おちて窓うち叩く霰まじりに
後拾雑四　冬の夜も更けゆくまゝに高砂の尾上の松に風ぞ吹きそふ
山家集上　ふけぬなり外面の竹に雪おちて窓うち叩く霰まじりに
拾玉集三　ふけぬなり外面の竹に雪おちて窓うち叩く霰まじりに
新後拾遺　ふけぬなり外面の竹に雪おちて窓うち叩く霰まじりに
拾遺別　ふけぬなり外面の竹に雪おちて窓うち叩く霰まじりに
同雑下　ふけぬなり外面の竹に雪おちて窓うち叩く霰まじりに
壬生二品　ふけぬなり外面の竹に雪おちて窓うち叩く霰まじりに
玉葉雑二　ふけぬなり外面の竹に雪おちて窓うち叩く霰まじりに
新勅撰雑四　ふけぬなり外面の竹に雪おちて窓うち叩く霰まじりに
新千古今雑下　ふけぬなり外面の竹に雪おちて窓うち叩く霰まじりに

冬歌
風雅 右
冬歌
拾玉集一
新後 三
月清集上
拾玉集又
拾遺 重上
新千 雑上
新勅 冬
新千 雑中
後拾遺 別
新千 雑下
新後 雑下

卯之刻ばかりそらしきかき
蟬の羽の風もみえぬ雪
雪ふりて枯野の草のうもれ
二夜三夜へだてつる
ふりつもる雪にうもれ
池のつらゝもそこのみ
みえ残りてふる野へ
わりなの雪やみぐ
空
ふりつむ雪にうもれ
ふりつもる雪にうもれ
ふりつもる雪にうもれ
ふりつもる雪にうもれ
ふりつもる雪にうもれ
ふりつもる雪にうもれ
ふりつもる雪にうもれ
ふりつもる雪にうもれ
ふりつもる雪にうもれ
ふりつもる雪にうもれ

本朝 右近衛
藤原雅経朝臣
酬和 入
為家卿下
後鳥羽
定家
従二位
源頼
平政村
秀逸 撰
皇太后宮
権大納言
西園寺
入道
前
為兼卿
中書 祐
親王 成
後伏
光厳
天智天皇
柿本朝臣

拾玉集三　[illegible]

続後拾雑　[illegible]　前中納言定房

新千雑下　[illegible]　後醍醐院御製

続拾遺雑　[illegible]　實方卿

新葉雑中　[illegible]　前中納言

千載秋下　[illegible]　右大弁

新続拾春下　[illegible]

続古今二　[illegible]

続拾遺　[illegible]

新古今　[illegible]

新葉雑上　[illegible]　醍醐入道

新続拾　[illegible]　堀河右大臣

壬生二百中　[illegible]　よみ人しらず

玉葉集　[illegible]　村上院御製

新後雑上　[illegible]　大納言

新勅雑一　[illegible]　赤人

若菜下　[illegible]　大江貞重

大和物語　[illegible]　行念法師

玉葉集二　[illegible]

金葉集　[illegible]

続拾遺　[illegible]　康資王母

風雅秋中　[illegible]　右京大夫

新後拾春　[illegible]　前大僧正

続古今　[illegible]　俊成

壬生二百中　[illegible]

詞花集　[illegible]　大納言

続拾春上　[illegible]　院小侍従

新葉集　[illegible]　右近大将

月清集　[illegible]　大納言正教

新続拾　[illegible]

新続古冬　[illegible]　三条入道

続拾遺　[illegible]　寂超法師

拾遺集　[illegible]　よみ人しらず

狭衣一　[illegible]

拾遺集　[illegible]

続千秋上　[illegible]　右大臣

山家集上　ひとりねの[illegible]　あすく[illegible]

総角　[illegible]　あくね[illegible]

古今恋二　[illegible]　あくね[illegible]

抄　[illegible]　あくね[illegible]

山家集上　[illegible]　あくね[illegible]

新拾秋下　[illegible]　あくね[illegible]　順徳院御製

拾遺愚草下　[illegible]　あくね[illegible]　関白前太政大臣

玉葉恋上　[illegible]　あくね[illegible]　従二位家隆

風雅冬　霜[illegible]　あくね[illegible]　[illegible]

玉葉秋上　[illegible]　あく[illegible]　同

古今春上　[illegible]　あく[illegible]　赤人

新後拾春　[illegible]　あく[illegible]　藤原[illegible]

古今物名　[illegible]　あく[illegible]　藤原[illegible]

新拾夏　[illegible]　あく[illegible]　堀河右大臣

続拾遺雑上　[illegible]　あく[illegible]　藤原定家朝臣

新古今羇旅　[illegible]　あく[illegible]　[illegible]

続古今恋三　[illegible]　あく[illegible]　[illegible]

玉葉雑四　[illegible]　あく[illegible]　皇太后宮大夫俊成

新古今恋一　[illegible]　あすく[illegible]　[illegible]

拾遺愚草上　[illegible]　あす[illegible]　源俊秀

新拾恋三　[illegible]　あす[illegible]

拾遺愚草中　[illegible]　あす[illegible]

新続古今　[illegible]　あす[illegible]　二條院宣旨

新千載　[illegible]　あす[illegible]　基俊

続古今四　[illegible]　あす[illegible]

山家集下　[illegible]　あす[illegible]

新拾恋一　秋の[illegible]　あす[illegible]　前中納言定家

大和物語　[illegible]　あす[illegible]

続古今三　[illegible]　あす[illegible]

続撰雑二　[illegible]　あす[illegible]

続拾遺夏　[illegible]　あす[illegible]　源重之

新勅撰雑一　秋の[illegible]　あす[illegible]　按察使綱光

続千秋下　[illegible]　あす[illegible]　源順

拾玉集一　[illegible]　あす[illegible]

続後拾遺恋上　[illegible]　あす[illegible]　壬生忠見

拾玉集一　[illegible]　あす[illegible]

大和物語　さても君つれなくうき事の
壬生二荒中　郭公なくや五月の川舟を
郭公　　　　おそみてもなのみたえせぬ
壬生二荒中　郭公なくや五月のあやめ草
郭公　　　　あやめもしらぬ恋もする哉
壬生二荒中　郭公なくや五月のあやめ草
郭公　　　　あやめもしらぬ恋もする哉
後拾遺　　　郭公なくや五月のあやめ草
拾遺雑秋下　郭公なくや五月のあやめ草
月清集下　　郭公なくや五月のあやめ草
殘古秋上　　郭公なくや五月のあやめ草
壬生二荒中　郭公なくや五月のあやめ草
後拾遺雑秋　郭公なくや五月のあやめ草
郭公　　　　郭公なくや五月のあやめ草
拾玉集六　　郭公なくや五月のあやめ草
壬生二荒中　郭公なくや五月のあやめ草
郭公　　　　郭公なくや五月のあやめ草
壬生二荒中　郭公なくや五月のあやめ草
郭公　　　　郭公なくや五月のあやめ草

壬生二荒中　郭公なくや五月のあやめ草
後拾遺雑秋　郭公なくや五月のあやめ草
壬生二荒中　郭公なくや五月のあやめ草
郭公　　　　郭公なくや五月のあやめ草
壬生二荒中　郭公なくや五月のあやめ草
後拾遺雑秋　郭公なくや五月のあやめ草
拾遺雑秋下　郭公なくや五月のあやめ草
後拾遺　　　郭公なくや五月のあやめ草
拾遺雑春　　郭公なくや五月のあやめ草
殘古秋上　　郭公なくや五月のあやめ草
壬生二荒中　郭公なくや五月のあやめ草
郭公　　　　郭公なくや五月のあやめ草
壬生二荒中　郭公なくや五月のあやめ草
郭公　　　　郭公なくや五月のあやめ草
壬生二荒中　郭公なくや五月のあやめ草
郭公　　　　郭公なくや五月のあやめ草
後拾遺雑秋　郭公なくや五月のあやめ草
拾遺雑秋下　郭公なくや五月のあやめ草
後拾遺　　　郭公なくや五月のあやめ草
玉葉五三　　郭公なくや五月のあやめ草
後拾遺雑春　郭公なくや五月のあやめ草
郭公　　　　郭公なくや五月のあやめ草

拾玉集一　くくりろく紀世よさひき武士れ
新拾雑中　いのまてと思みようけて発、為
新続古一　ありし秋の袂再夜そそしも
新千六二　歌よひて世う雪もつる人
山家集下　君よき人立かつくみろそ
新続拾三　ろろと思ふなりもせめて再
拾遺愚草下　ちくさうきれこれ給ろう神
新古六一　あれろみろめを浦よまろへ
狭衣四　おれるこの力何やるなまうよ
拾遺愚草　うれめへさそ今年しあめ
同　　　　秋雑に
玉葉六二　つまくとろうしる基ろくなき
玉葉六二　ちくろうまろなくこのろん
拾遺六二　おそそうよかろ秋月ろけを
新勅雑三　歌まよろれそうきせのろを
風雅六三　ちくさあろうの人のやもう
続古今魔　発ろうむしかろれ秋の月
拾遺愚草　ちくさめろんさしろの月あ

大僧正忠性
大江広貞
後二条通基
お開白大閤
准后元輔
永福門院
中務
院御製
漣守四助
女中納言為忠
権改の右大下
入道左右大下
大納言経有
清原宣賢
順徳院御製
堀川関白
園道良
監命婦

続古雑中　吹風もろふようろ秋の山里
新千六四　なくさめろ秋の山里
続古雑上　基も秋ものろ
続古雑三　ろのみくのろ
玉葉六三　人なとふのろ
新拾六三　なくさろくろ
新葉雑秋　新ろうなる月のろ
千載六三　ちくさろ
長秋詠藻　ろ庭を詠
風雅雑上　なれてろ月
多武峯四　月待ろ人
玉葉六三　つまくとろ
新古六四　更級ろ
新拾春下　つりめろ
続古秋下　ろくさめ
新葉六三　ろくさめ
新拾雑中　令あろ
新千六一　うちつけ

大和物語　うちつけの涙ふるとやきくからに
拾玉集七　もみぢちるねをなきてやしかぞ山
後拾遺雑　秋ふかき事をばしるらめ
新拾雑中　咲ぬとも乱れざらまし
後くさ三　別路の袖をいつもぬらすも
壬生二荒中　みやまぎれの雨ぞ袖にかかる
古今秋上　われのみや夜と思ふらむ
同　こゑたえず
玉葉秋上　分みてぞ聞ゆ
新勅秋下　かりのこゑ風吹まよふ
大和物語　秋ぞともなき
新勅夏　なでしこもねをぞなく
古今夏　夏の夜のふしとをかしき
好撰集上　ゑだをもまくらにうぐひすぞ
拾玉集六　ふるえの始りと宵
ふ哉集上　もみぢ葉よりもうすき世に
拾玉集七　山ぢをえやはいつる
月清集七　君ぞくまなきあひ坂の

後千
右衛門督
為

拾玉集一　さらでとてうき旅ごろも
好撰ふ三　かへるさの
壬生二荒中　あるも山谷乃雲時雨
古今春上　梅のえをきりてもみな山乃鶯
月清集中　もみぢ葉を
新勅雑二　いつしかもひとりの袖
山家集下　今八重ゝ
新勅雑二　ふるまゝ都をおもひこそ
古今哀　久され人乃ともとをおもひ
後古雑下　いつしかもとまりまでに
新古雑下　松ならぬあまたの年
同　思ふべき我後の世をいかゞ
風雅哀　かなしさ
新拾恋三　あひそへてこゝろ乃
後拾恋二　身のうきも
新古冬　ゆくへきみのむれひめ
新後古春　今日まてとのみ

六十九

基俊

和泉式
ふるさと
前大僧正慈
後人
赤染
源重之
後千
右衛門督
為
金葉後
後拾遺
左京大夫
永縁
後拾遺

後千載 おもふこと侍りしころ 大僧正行尊
新拾遺 ぬきもせぬ袖をもぬらして袈裟の 法印経深
新千載 うらみこりてもむなしき袖の上よ 道親王尊
続後撰 なげくあまりの涙のつゆもかさなり 藤原為家
続後撰 同 思ひきや身をうき舟と浪まくら 従二位経子
新続古 つもれども世乃中をうみわたる 平時実
新後撰 雑中 分ひとつよりうき舟と思ひ 藤原為家
拾遺 うき舟をこぎ出でぬとも思ふなよ 皇太后宮大夫俊成
新千載 雑上 頼めおきし後も我ゆく海ならば 同
金葉 あまつそら波をもみるものとこそ 源俊頼朝臣
山家集下 さまざまにうきをもつらきものとのみ 西行法師
風雅 雑下 きみこずは山乃井水ぬるくとも 後醍醐院
新千載 雑下 なげきをつつみてぞ人をうらむべき 同
新千載 雑中 分ひとつよりうき舟と思ひ 藤原為家
新後撰 雑上 頼めおきし後も我ゆく海ならば 同
金葉 あまつそら波をもみるものとこそ 源俊頼朝臣
山家集下 さまざまにうきをもつらきものとのみ 西行法師
風雅 雑下 きみこずは山乃井水ぬるくとも 後醍醐院
新千載 雑下 なげきをつつみてぞ人をうらむべき 同

拾遺 ながらへばまたこのごろやしのばれむ 大弐三位
玉葉 憂しとのみ人のみ山乃山風に 相摸
拾玉集七 嘆きつつ独ぬる夜の明方は 永福門院
新勅撰 雑四 ながらへばまたこのごろやしのばれむ 権大納言実国
玉葉 憂しとのみ人のみ山乃山風に 源雅光
金葉 雑上 もの思へば沢の蛍も我身より 道因法師
続後撰 雑上 つれもなき人をやうらみむ 藤原為家
新千載 雑上 ながらへばまたこのごろやしのばれむ 大弐三位
新古今 雑下 憂しとのみ人のみ山乃山風に 相摸
新後撰 雑上 嘆きつつ独ぬる夜の明方は 永福門院
拾遺 もの思へば沢の蛍も我身より 権大納言実国
玉葉 雑上 つれもなき人をやうらみむ 源雅光
続後撰 雑上 ながらへばまたこのごろやしのばれむ 道因法師
新古今 雑下 憂しとのみ人のみ山乃山風に 藤原為家
新後撰 雑上 嘆きつつ独ぬる夜の明方は 大弐三位
拾遺 もの思へば沢の蛍も我身より 相摸

新勅雑二　あさなけにみつきおとせしうらなみの　なごりせしまのよそにてそ[illegible]　よみ人しらず
明石　うらさびしくかけし浦波の　なごりいかにと思ひやるかな
続拾雑上　思ひそめし都の空のなこりとて　なごりはなれぬ[illegible]　侍従雅有
月清集上　さらでだにすみの袖のなかれ[illegible]　なごりの[illegible]
続古今三　思ひ出のむかしの[illegible]　なごりはなれぬ[illegible]　前関白左大臣
新千雑上　[illegible]みゆるよそにもしられ[illegible]　なごりはなにと[illegible]　前大納言為家
続拾遺　山のはに入りかた[illegible]の月なれと　なごりはまたも[illegible]　よみ人しらず
新千雑下　行きかへりわれ[illegible]　なごりは[illegible]　三条院女蔵人左近
続千恋三　つくづくと[illegible]　なごりをよそに[illegible]　素性法師
後撰恋四　いつとてもなかりし[illegible]　なごりを[illegible]　朝忠朝臣
明石　このたびはたちわかるとも[illegible]　なごりは袖の[illegible]
玉葉春下　たえまなき[illegible]　なごり[illegible]　平宗宣朝臣
拾玉集七　郭公ありつる一声[illegible]　なごりはみるに[illegible]
新続古秋下　[illegible]も霜をさそひて[illegible]　なごりは[illegible]　中納言為藤
新千恋四　[illegible]風[illegible]　なごりはさぞや我は[illegible]　源宗于朝臣
大和物語　奥津風[illegible]　なごりはさぞや我は[illegible]
玉葉雑一　鳴きそ[illegible]　なごりとも森の下[illegible]
新拾雑別　惜しみつつ[illegible]　なごりとてまた[illegible]　[illegible]

新後拾春　行くもかへるも[illegible]　なごりとてまた[illegible]　前大納言為家
山家集下　[illegible]
風雅春　[illegible]　なごりとはまた[illegible]　権中納言基[illegible]
月清集上　郭公[illegible]　なごりとも[illegible]
玉葉恋二　[illegible]　なごりはまた[illegible]　前大僧正道昭
新千羇旅　[illegible]　なごりとて[illegible]
新古今三　[illegible]　なごりの月[illegible]　西行法師
新勅恋二　[illegible]　なごりを[illegible]
壬二下上　[illegible]　なごりぞ[illegible]　人丸
新千恋三　[illegible]　なごりにつきせぬ[illegible]
拾玉集四　[illegible]　なごり[illegible]　前大納言為[illegible]
風雅恋四　[illegible]　なごりの[illegible]
拾玉集一　郭公[illegible]　なごりなる[illegible]　院少将
同七　九重[illegible]　なごりの[illegible]
月清集上　[illegible]　なごり[illegible]
風雅雑中　[illegible]　なごり[illegible]　従二位家隆[illegible]
山家集下　[illegible]　なごり[illegible]
新拾秋下　[illegible]　なごり[illegible]　紀友則

長秋詠藻
拾遺一
千載雑上
若菜上
後撰一
新勅撰下
山家集下
拾遺一
新後撰一
大和物語
新後拾遺
後拾一
新千載三

ものひつまねきよりてこれをとりてかへりてのちにこれをおくるとて
おなじ心を
ありやもとふるさとの花
村雨の露もまだひぬまきの葉に
霧立ちのぼる秋の夕暮
大納言
望一位知家
君ならでたれかはみまし
大和物語
新後拾遺
後拾一
新千載三

拾遺愚草上
新後撰一
拾遺雑上
千載雑上
後千載撰
新勅撰一
同
後撰雑四
新千載一
拾玉集一
新後古雑
山家集下
玉葉集中
拾遺一
山家集上
拾玉集七
新後撰三
風雅一

春ふかみ花のしたにて
おなじ心を
ながめつつ思ふものから
ながめやる
小町
権中納言長方
ながめつつ
ながめわびぬる
ながめやる
ながめつつ
ながめわびぬる
ながめやる
ながめつつ
ながめわびぬる
ながめやる
ながめつつ
ながめわびぬる
ながめやる
ながめつつ
ながめわびぬる
ながめやる
ながめつつ
ながめわびぬる
ながめやる
ながめつつ
ながめわびぬる
ながめやる
ながめつつ
ながめわびぬる
ながめやる
ながめつつ
ながめわびぬる
ながめやる

拾玉集三　梅花あかぬ人のうてまくらを　なさけをくろ身をけいせ

風雅恋五　うつりかはる心ろ風のつてならは　なさけをかくる夜はをたのまし　従二位親氏

拾玉集一　うきわれて物ゝ思ふ風よ　なさけをまくる波の音かな

同六　あはれてふ事よせもちて思ひける　なさけとそふもきえてゆく

山家集上　まちつると神よあはれを思ふらし　なさけを海になりそめし

拾玉集六　きけは君諸とともにあはれ人は　なさけ花にそあふそ高き

同二　なにとなく花の匂ひに秋まてく　なさけある神のうたけれ

新後撰雑上　今は世にまよへり我をあはれくは　なさけあらん花をかへりみれ　前右近中将基顕

拾玉集恋　われは猶雲のあとよもかへりて　なさけあるはよふかまつ　大将軍

続古哀傷　さくらと花くは夜の何ゆゑに　なさけある人の命をも見えて　右衛門督実任

後拾遺恋三　契りしはあるぬつまもあはれそれ　なさけあれは心えとさきれ　周防内侍

玉葉恋二　かきくれてふりしをやかてむかしに　なさけあるかへてはけつゝさえま　清輔朝臣

新千恋二　なにとなくつかへても何の行さへも　なさけありてましるる覧　藤原仍春

続拾雑下　立てる波むかしをあはれひのうつりけれ　なさけれつきて我そ恋し　式乾門院御匣

千載恋五　うしとおもふ心そつらきこの世より　なさけにてもしら君か　和泉式部

続拾雑中　ゆくそらにあるかねのかたをもつて　なさけにてもの我やけん　前大納言基良

拾遺恩下　けふあすの人の子ゆかて恋ひしや　なさけにてもかへよやなや　平親世

玉葉雑五　何ことをかきて世をもうらみん　なさけなくもあはれをしや

新後拾恋五　つらしさて人の身をみんあとをゝれ　なさけまうき身のあはれさそ　伏見院御製

風雅雑下　乃わけの風のあらかぬ枕をもひく人の　なさけありてもいふかひもなし　中納言為相

古今哀傷　おもへはしぬさへ別れもいかりけり　なさけあらはいかに君そあらん　よみ人しらず

続後撰恋五　秋の世のあまり立ゆく霜の音とそ　なさけある人もかへらす見る　権中納言定家

新千雑上　さらにまたなき山陰の月まちは　なさけあらはとかくなりぬるかな　在原行平

新後拾恋　まことなる悟もあはれにそ見よ　なさけあれとつらき人ゝ　前中納言匡房

拾遺哀　山深くすみうき人も住れなれは　なさけぬらしてまつ山のかけの　つらゆき

新千恋三　おもふなんとはれたもせさらめかれ　なさけあれは何のわけもみなきそ　津守国道

同恋一　かはりそめひとつなきもあはれにて　なさけなさにたえきかくとも　後京極摂政

山家集下　なにとまつかゝらぬ人を尋ぬる人山　なさけもしらぬ世の中そ

続古哀傷　世の中にはかなくとのみ人をたのみて　なさけしらぬ花の露ゆゑ　七条院権大夫

玉葉秋上　住ぬる雲の奥のいかに待ゆゑ　なさけなるかはりの世をしりて　伊勢

新千恋五　手にさへ涙も袖にかゝりても　なさけつらきをもいかにこそいへ　貫之

新拾雑中　いまはとてしのひの身のまとも山の関もも　なさけあるものそありけるかなし　鎌倉右大臣

新葉哀傷　ありてゆくと思ふはそれさへ神もおもへて　なさけつかゆる世をのみそ　隆寛

拾玉集二　なにもとてもあらうちはあはれ人の涙を　なさけなくなかれる世をも　藤原為氏

拾遺哀傷　世の中はかなしきものと思ふ人　なさけあるもまた人をたのみ　藤原為教

玉葉雑五　いまはとて忘るゝもなき入日の　なさけとさはりもはやてをれて　寂蓮法師

類句なさけ

新千載集 雑下

新千載集 雑下

新千載集 雑下

新千載集 雑下

新後拾恋一　恋しさのまさるくらべのなかなかに　なき名をとこそいはまほしけれ　正三位為世女
新古雑下　涙しも思ひもしらぬ時雨かな　なきさへ袖のひまなかりけり　菅贈太政大臣
続後拾恋一　吉野河わたりて後のうらみかな　なかなかなかにたのまざらまし　贈従三位為子
拾遺恋二　深き江のよしや人こそつらからめ　なきなをたてぬ人のなきかな　源重之
古今恋五　人を思ふ心はかりにあらねども　なきさへ雲のよそにこそ聞け　伊勢
新千恋三　今朝よりは我身はなにとなりぬらん　なきたえんとも思ひかけきや　源孝範
千載恋一　あはれとも思はぬ人に恋ひわびて　なきさへ袖の涙なりけり　源俊頼朝臣
新千秋上　秋の夜の月の影のみ明石潟　なきさもあるる浪の音かな　前参議義詮
拾遺恋二　このはかりたのめし人の心こそ　なき名すらんとおもひけるかな　よみ人しらず
新後拾雑下　ひとり寝の床にもつもる涙かな　なきさもしらぬ袖の上かな　権大僧都頼源
続拾遺雑　かくしつつ我よのことを思ふにも　なきさうらみし人ぞ恋しき　小弁
玉葉　君が代を祈るこころの末遠く　なきのみやまた千代とならん　権大僧都清尋
拾玉集一　我ばかりつらき山の月をみて　なきさえ心にしみわたるかな
新千夜傷　遠ざかる月日を思へば今さらに　なきさえ昔の人ぞ恋しき　法眼行済
新後雑下　めぐりあふ今宵の月を見るからに　なきさもなにか思ひおくらん　前大納言実家
新千夜傷　なげきわび月をも恋ひし夜半の空　なきさもおもひ出の夢を見ん　法眼行済
同　春を経て見し月日をばかぞふれば　なきさもあはれ山の端の月　前大納言為家
新後雑下　我宿は月をも風の吹きまよふ　なきさへ山をこえてなくなり　皇太后宮大夫俊成女
壬生二百中　たれかまた風をまつまの人の色　あきさこそ秋の初風　壬生忠見
後拾遺雑三　またいつと思ひも出でぬ人のよに　あきさへしのぶ心なりけり　中務卿宗良親王
新葉秋上　ゆふぐれの空さへくもる秋の夜に　あきさへかなしき神無月かな　後醍醐院法親王
続千恋四　月も知る人のまつにぞ頼まれぬ　あきさえて神の誓ひの跡よりも　こつね
古今秋上　かりそめの宿のあはれを知らねども　あきさへ秋のこころなりけり　坂上是則
新千続　うつせみの世の中の人はかなきを　あきさへ今もしりぬべきかな　大僧正忠性
拾遺恋下　恋ひわびて年をもつもる涙かな　あきさへ心あはれなるかな　従三位親文
新葉　思ふことありともなしに月影の　あきさへよそに過ぎゆきにけり　惟宗光吉
続千恋一　我袖の露をも払ふ秋風に　あきさへそでのぬれまさりけり　藤原範兼
同冬　冬がれの野べのあさぢのしたにさへ　あきさへ山のあらしなりけり　前中納言為氏
新葉　あかつきの別れをなにとかこちけん　あきさへ人の心なりけり　九条前右大臣基氏
新拾恋三　秋といへばこころのうちに物ぞ思ふ　あきさへつらき人の心か　よみ人しらず
拾遺別　さらばとて別れし人の面影は　あきさへわかれの袖ぞ濡れける　よみ人しらず
古今恋五　思ひわび恋しき人にあはぬまに　あきさへ君がこころなりけり　読人しらず
大和物語　こひわびて涙の川にうかぶとも　あきさへこころはつらきなりけり
続後撰雑中　里とほく人もかよはぬ山里の　あきさへ寂しき風の音かな　藤原康光
拾玉集又　秋はなほ心にかかる月影を　あきさへさらに思ひこそやれ

強手葉上　要氏之川々之瀬々之石乍　九州肥前
拾五集七　物古乃　久爾乃堤尓　有之兼　作者未詳
新古今三　みそぎする　河瀬の浪の　花の色は　源有長朝臣
新勅撰三　神つ代を　かけてぞ匂ふ　八重桜　中務卿宮惟明親王
新葉春一　身をわけて　ふるさと匂へ　梅の花　小島命婦
拾遺春上　くらべこし　ふりにし人の　袖の香も　作者未詳
同　　　　昔にて　なほ匂ひ来る　梅の花
拾玉集七　みわたせば　山もとかすむ　水ぬるむ　作者未詳
新葉春　　この里に　まだ雪残る　冬籠り　作者未詳
新拾春下　春立つと　いまだ雪間の　若草は　後京極摂政前太政大臣
千載春二　雪ふかき　野辺の若菜を　つむからに　作者未詳
新古春上　きくひとの　袖さへにほふ　花の香に　作者未詳
拾遺春上　染めばやな　心も知らず　墨染に　作者未詳
拾遺雑上　思ふどち　春の山辺に　うちむれて　作者未詳
新葉雑上　せめてもの　花の蔭をも　思ふかな　作者未詳
新古羇旅　草枕　ゆふべの空を　ひとつにて　作者未詳
拾遺雑上　ふる雪も　ふりぬるものを　春霞　作者未詳
新後拾冬一　我宿に　いまさく梅の　ちりぬとも　作者未詳

新千雑上　我宿に　植ゑし梅の木　見るごとに　作者未詳
同哀傷　　君をのみ　思ひ出でつつ　ぬばたまの　作者未詳
新後拾雑下　垂乳根の　母が飼ふ蚕の　繭ごもり　作者未詳
新葉哀傷　思ふやう　あるものぞとは　知りながら　作者未詳
千載雑二　なほ恨めし　昔の人の　秋の夜の　作者未詳
同哀　　　古もかくや　嘆きけむ　ふるにつけても　作者未詳
五葉春下紙　あまつ空　雲の上まで　聞えあげよ　作者未詳
風雅雑下　なきものと　思ひ捨てつつ　忘れ草　作者未詳
後拾遺雑三　これやこの　名にしおはば　逢坂の　蟬丸
後拾遺雑六　花の色は　霞の奥に　こめてだに　伊勢大輔
後拾遺哀三　ものごとに　染むる心の　あやなきは　赤染衛門
拾遺哀下　　もろともに　あはれと思へ　山桜　行基菩薩
拾遺別上　　立ちわかれ　いなばの山の　峰に生ふる　中納言稲葉
強古秋下　　ささの葉は　み山もそよに　さやげども　清原元輔
新古神祇　　ちはやぶる　神の斎垣も　越えぬべし　権中納言雅
新千雑上　　大和なる　初瀬の山の　山おろし　大伴黒主
五葉春一　　なくうぐひす　なほこもれるか　春の雨に　山上憶良

拾遺恋五 [illegible]

新拾恋三 [illegible] 贈従三位為子

玉葉雑五 [illegible] 道性法師

金葉恋下 [illegible] 皇后宮式部(?)

新後雑下 [illegible] 法印定勝(?)

風雅雑下 [illegible] 備前法印快(?)

新古哀傷 [illegible]

新葉哀傷 [illegible] 藤原宗家朝臣(?)

後撰夜 [illegible] よみ人しらず

拾遺雑秋 [illegible] みつね

壬生二百中 [illegible] 能宣法師(?)

新後拾雑中 [illegible] 永福門院

後撰恋六 [illegible] よみ人しらず

金葉秋 [illegible] 平忠盛朝臣

後撰雑四 [illegible] よみ人しらず

千載雑上 [illegible] 権中納言(?)

風雅春下 [illegible] 後[illegible]

後撰秋中 [illegible]

新古哀上 [illegible] 藤原[illegible](?)

後拾雑[illegible] [illegible] 津守国道

拾玉集四 [illegible]

壬生二百中 [illegible]

同 [illegible]

同下 [illegible]

同上 [illegible]

新勅恋三 [illegible] 皇太后宮大夫俊成

月清集下 [illegible]

新古羇旅 [illegible]

後撰恋一 [illegible] 藤原家隆朝臣

月清集上 [illegible]

同下 [illegible]

壬生二百上 [illegible]

玉葉雑二 [illegible] 中臣祐春

拾玉集六 [illegible]

同歳 [illegible]

新続後撰雑上　わすれ浦やそなたの空に詠むらん　順徳院御製
拾玉集一　ふじのねの煙の絶まくもみよ三つの山のうちにて
月清集下　清みなく松の下風吹ふりぬ雪をや春の残花経
新後古今　月ふけてみてもみるまの水底に雪をや春の残花経
拾玉集　神風やみもすそ川の水上に雪をや春の残花経
壬生二品上　月ふけぬ松の梢も雪ふりて雪をや春の残花経
後古今抜書　神さびてあれにく世の風ふけば雪をや春の残花経
月清集下　禁じ来し花のにほひも雪ふりて雪をや春の残花経
拾遺愚草　冬の日数ふる山の松風雪をや春の残花経
新後拾遺　住吉の松のあらしに雪ふりて雪をや春の残花経
月清集上　あさぼらけ有明の月の雪ふりて雪をや春の残花経
後拾遺下　吉野川わたれば水も雪ふりて雪をや春の残花経
山家集上　みよの浦のあまの塩焼雪ふりて雪をや春の残花経
玉葉冬々　大井河もとの紅葉ふりにけり雪をや春の残花経
月清集下　嵐ふく比良の高根は雪ふりて雪をや春の残花経
新古今羇旅　いく秋の月をあはれと思ひきて雪をや春の残花経
山家集上　きりをみつ山ぢの雪ふりて雪をや春の残花経
拾玉集二　きえもせぬ雪のみふりて雪をや春の残花経

古今恋四　みるめなき川のみなれの名をだにも
壬生二品上　みをつくしよるべの波の名にしおはば
拾遺愚草上　なにはがた入江の蘆のかりねにも
山家集下　池水よ春きぬとだに月ぞすむ
新後古聖　和泉の浦のあまの名だにも
拾遺賀上　もろともにあはれと思へ山桜
拾遺愚草上　かくしつつあるにもあらぬ身をしれば
新古今　さそはれぬ山路の雪の夕暮に
後拾遺雑四　数ならぬみくまの浦の浜千鳥
壬生二品上　なくなくぞ越る袖の涙川
後千載下　ひとりぬる山路の雪の朝ぼらけ
月清集上　ひとりぬる山路の雪の明ぼのに
新古今　わすれじの行末までは難ければ

壬生二首ト　わすの原はら風吹ふくと　波もとりやもろ鳥人
古今秋上　川風のすゞしくもあるうら　波もゝやまとしま
新古秋上　こゝもとも野邊の淺茅末　波と月とにたつの
月清集上　あさくとも池のうき草見しも　波よ寢とよ蛙も也
拾玉集三　見つゝ世はまつ秋風に　波と松との音斗して
古今物名　かなくしてつゆ吹ふくる　波もかあもの
玉葉雜一　世嬉や濱松みれば　波もようふ松かな
新拾秋下　入日さしてをあれ松原　波もよあさを吹ふく
後々雜上　みよ我門月よ浦くる　波もありくゝ
順歷　浦人のたくなむ袖や　波もつてろうそろを
新續雜中　浦とせのまゝもかゝる　波もつてうら海の釣舟
玉葉續　見てもおもひもよらぬ　波もつてわれなる
拾遺雜上　末もおもひもよらぬ　波もつてそ老てきくん
後々雜上　おもひあまりうちもねぬ　波もをうけて終のう
拾玉集二　松風くや夜更てしも　波もの心そよふうく
同　八重霞浦くや舟出　波もの有ともしらぬ
玉葉續　和田の原やら見渡風も　波もの心もとなく
新勅撰　我をかなおもふさまの　波もなれ多やれのうら

新拾雜中　松浦ふるとこしへ雲　なみもちもやつれまの
風雅雜三　君ゆくよ雲ありひさ　なみをうてかけあ
千載雜上　天津空ひかよ足柄　なみをもまそを
拾玉集四　月のみの浦んに開　なみをうまてくよ
山家集下　とゝろもあれ今こゝ　なみをうまてくよ
新千秋上　をうて山のもみぬ　なみをうまてくよ
拾遺雜上　ふるも浦ふれ松も　なみをのことうこゝ
拾玉集又　むし今浦こうまる　なみをもうまる
山家集下　ひとへの松しうら　なみをうまてそ
後々秋下　秋さもなうの浦　なみをうまてそ
千載雜上　うらふの後のまゝ　なみをうまてそ
後撰雜四　世のうこあそ海も　なみをうまてそ
新後拾秋下　まの雲浪数ゆく　なみをうまてそ
玉葉秋下　もゝちあれ山乃月　なみをうまてそ
新古雜上　月を待て数ゆく家　なみをうまてそ
拾玉集七　志賀乃浦人のゝや　なみをうまてそ
月清集上　浦のうちみ出乃　なみをうまてそ
後々雜上　うち出浦のひうら　なみをうまてそ

侍従為教　侍従為教
源為憲　源為憲
（為教ノ子）
（為憲ノ子）
大江貞重　大江貞重
二条院ヨリ
左衛業綱　左衛業綱
大宰ニ下ル
（業綱ノ子）
（業綱ノ子）
菅原孝標　菅原孝標
（孝標ノ子）

拾玉集七　あしたの庵を立ちまうでてみくれ
金葉雑上　ゆきてみるそでさへぬれてあけぬまの
月清集上　道もなほゆくあけぼのの露
拾遺愚草上　ちるこひく四のもみぢ風まぜに
殊古冬　知覚山のかけふる河の淀
同要上　ぬきてうき緑もぬるる風よ
殊古恋一　人まちぬるる袖の露
長秋詠藻　袖あれはつるる夜半の風
殊拾雑下　露きえてはるるくやうの
拾遺集雑下　みぞれふる荻の葉の音
新殊古雑　うきうきもなきありやなしや
殊古雑下　葉もの露よりそ月やどる
殊拾遺恋　うらみじとさてもつきぬる
殊拾雑下　人まちぬる袖のうへの
拾玉集一　思ふこのたえぬ袖のうへ
長秋詠藻上　とふ人のなくにくれゆく
千載秋下　さそ庵の暮の雨の
拾遺恋五上　とふひとのなき宿の夕暮

新古恋一　我ありとうちもとけなん
古今六帖　かくりつつ二年へにけり
新古恋一　月ぞ昔の袖の涙を
新殊古恋　いひもはてぬ物とこそ
千載雑別　をしみてもなほ別路の
殊拾恋三　あかつきの風
新拾恋四　あやまちぬ袖のうへの
殊拾雑上　人をうらみぬ袖のうへの
新古恋一　ちぎりおきしさせもが露を
新古恋五　ちぎりおきしさせもが露を
新勅恋四　ちぎりおきしさせもが露を
大和物統　ちぎりおきしさせもが露を
新拾雑一　ちぎりおきしさせもが露を
殊拾雑下　ちぎりおきしさせもが露を
壬生二京上　ちぎりおきしさせもが露を
新古恋一　ちぎりおきしさせもが露を
古今六帖　ちぎりおきしさせもが露を
新古恋五　ちぎりおきしさせもが露を
新勅恋四　ちぎりおきしさせもが露を
大和物統　ちぎりおきしさせもが露を
新拾雑一　ちぎりおきしさせもが露を
殊拾雑下　ちぎりおきしさせもが露を
壬生二京上　ちぎりおきしさせもが露を

続後拾恋一　こひしさも思ひも袖にあまるらん　なみだハつゝき物をこそ思へ　左近中将公基
玉葉秋上　鹿の音もものおもふ人の寝覚にぞ　なみだハつきぬ秋のよすがら　藤原永光
続千雑中　山陰ハうき世の外と思ふにも　なみだはあれぬ墨染の袖　権大僧都良覚
続拾遺哀傷　わかれにし花のかたみと見るからに　なみだハ袖にいろそまりけり　伊勢大輔
千載雑中　其ことも世にもうれしき世の中に　なみだハ袖にこぼれけり　藤原顕方
続後拾雑上　昔見し人は雲井にすみぬなり　なみだハかけの袖にやどりて　宜秋門院丹後
金葉恋下　忘られぬ人のつらさの心にも　なみだハえこそ忘れざりけれ　中納言国信
新拾恋一　つれなさは袖にも淵となりやせん　なみだハきえぬ涙ともかな　大納言隆博
続拾遺雑三　いつまでか袖にかすみをほしわびむ　なみだハおかぬもとの泪なる　和泉式部
壬生二百中　ひとり袖をしぼれる人は　なみだハみえぬ袖のうらかな　前大納言為世
続千恋一　思ひあまりこひしき人を何に見む　なみだハしほれ袖ぞくちぬる　鴨長明
新古羇旅　袖のみも月やどれとは思はねど　なみだハあるや秋のたび人　入道前太政大臣
続古恋五　いまで世にふるもそで袖ぬれぬ　なみだハ雪のうちにもまさりけり　藤原清輔朝臣
千載恋三　しのびつゝなげくも人ぞ知らざりし　なみだハ袖にそぼちけり　よみ人しらず
続後撰哀傷　旅衣袖ぞ涙にぬれにける　なみだハゆくへしらぬ秋の夜　院源
風雅恋二　見ぬなかのそれよりもなほ　なみだハいろに出でにけり　中務卿親王
続古秋下　家もなき秋の別やおしからん　なみだハ袖にかゝる白露
拾玉集四　いとゞしく恋する人のむすぶてに　なみだハよわる山の井の水

続後拾恋三　あふことは世にもめづらぬ夜半の月　なみだハ我かたしきの袖　鷹司院按察
拾玉集二　花の色も緑の糸も深き夜に　なみだハすみむすぶ草の露　中務卿親王
同四　むかし人月やあらぬと思ひしれ　なみだハむすぶ夢の枕に
続古恋一　色に出て人ひとりてもこひしさは　なみだハ袖のしぐれなりけり　よみ人しらず
続撰恋一　ちぎりてもうき世の人の袖にこそ　なみだハそでのみを知る　同
新勅恋五　思ふ人物をこそ思へ秋の夜の　なみだハ紅の色にぞ出ぬる　三条右大臣
玉葉恋三　人しれぬ心のうちにすむ月の　なみだハ袖の秋風　平親清
新続古恋五　恋すれば心のうちの山の井の　なみだハいとゞ袖に見えけり　入道前太政大臣
玉葉恋三　恋すればわが身のうちの秋風に　なみだハ袖の露にみだるゝ　藤原信実朝臣
新拾哀傷　いつはりの世の人の袖にこそ　なみだハ袖に宿る月かげ　菅原為長
新葉雑下　いかにせん袖のみぬれて秋の夜の　なみだハ空の雲のゆくへの月　真昭法師
続古恋三　あまりにも物を思へば袖のうへに　なみだハいとゞ露けかりけり　よみ人しらず
古今恋四　かくばかり袖の別はつらき物を　なみだハにごる秋のよの月　前大僧正慈鎮
続後拾雑下　いかにせんかぎりの袖をかくしても　なみだハにじむ物のかなしき
新古哀傷　むかし思ふ袖にかゝれる露の上に　なみだハそのかみの秋の夜の月　前参議忠定
続古哀傷　なき人をしのぶる袖の露けさに　なみだハ袖にまがふ白露　よみ人しらず
続千恋五　つれなさをしのぶの山の袖ぞとて　なみだハ我袖にかゝるなりけり　平宣時朝臣
月清集上　ふるさとはしのぶの露にまさりけり　なみだハかくて人しらずして

続千恋三　恨あれば今ぞかぎりの世なりけり　なみだのうちにくらす月日を　後二条院御製

新後雑下　うきは世の別と思ふ人もなし　なみだのみこそふかきさ　前大僧正良覚

続千恋三　こひてあふ夜はやがて別路の　なみだの露にやどる月　今上御製

新千恋三　明ぬとやいそぐらん袖の　なみだのきえぬ露のおき　前関白左大臣

金葉恋下　恋の心の行衛も知らずさすが　なみだの袖をぬらしつつ　源師俊朝臣

新古恋四　いまはとて別し程の月をだに　なみだにくもりて見ぬぞかなしき　藤原経衡

風雅雑下　うき身にも今はなれぬる秋の夜の　なみだのうへの三日月の影　顕親門院

拾玉集一　ねざめせん我後の世の人もみよ　なみだにぬるる袖のうきを

月清集下　ひるは夜よるは昼にぞなりにける　なみだのふかき床のかなしさ

玉葉恋二　偲ぶには面影をのみ見するとて　なみだのそこの月　皇太后宮大夫

続衣四　恋すれば今ぞさしける　なみだの露のおくらん

文字

拾遺恋三　さやかに見る人なき月を見る　なみだにくもる秋の夜の月　中務

玉葉恋四　よもすがら涙にむせぶ我袖の　なみだのやどる曇り夜の月　権僧正定円

新拾恋三　このほどは思ひなき袖もなし　なみだのやどる月を見るかな　前中納言定定

壬生二子中　袖ぬれて月ぞやどれる袖の上の　なみだのやどる秋の夜の露

続古冬　冬の夜はあかぬ夜もすがら我袖の　なみだの氷のつらら　中務卿親王

新千雑中　まよひつつありし世をそへ恋ふる　なみだのはての露ぞこぼるる　正三位知家

新勅雑四　ふるさとの君がかたみのかたみぞ　なみだのふる秋の夜の月　平時村

続後拾秋下　浅茅生に秋の名残を鳴く虫の　なみだのあまる秋のよもすがら　従三位為理

玉葉恋二　今ははや思ひたゆべき恋の　なみだのかずをまさる袖の上　従三位親子

山家集下　衣手を心のおくに見るなみ　なみだにぬるる袖もかな　伊勢

新拾恋　かたみにも面影もなき　なみださへもなき秋の　

後撰恋一　思ひきや我が身のうきを　なみだもしらで　右大臣

壬生二子下　むかしにてはれぬ夜の　なみだのみなる袖もぬれぬ

新千雑下　思ひ出の昔の袖の月　なみだのやどる袖の上の月　法印覚

新千雑下　みしよにも似ぬ月ぞかなしき　なみだのいろに出でにける　前大納言為家

拾玉集四　旅衣ぬきもかへぬに秋のきて　なみださへなく衣手の露

続古恋二　待わびて海の涙もいかならん　なみだのかかる袖のうらなみ　前大納言基良

壬生二子下　そぼつらん袖の上の月影　なみだにやどる秋の夕暮

玉葉秋上　露をおく袖の秋にも七夕の　なみだのやどる秋の一夜は　平時村朝臣

続後撰恋　ちぎりきて夜をかさぬる袖の　なみだやあらぬみる　後堀河院民部卿典侍

千載羇旅　なれぬ宿の君をもなし宿の　なみだのかかる旅の衣　僧都覚雅

続古羇旅　旅の宿の木の葉の露ぞまさる　なみだにうかぶ月のかげ　後京極摂政前太政大臣

拾遺自然　移ろはぬ萩の下露　なみだのやどる秋風の声

常葉　風さそふ身の秋の庭　なみだもちるなり

後撰秋上　秋風のふくにまかせてやまがつの　なみだもいとどもる人もなし
新古今　浦風や吹よりあみのうすごろも　ちぢにおもひをくだくころかな　大納言経信卿
後拾遺雑春　めづらしや花のあるじの心ざし　ちりくるまでの人をとどめて　平重時朝臣
同恋二　ながめつつ思ふにしるし我袖の　なみだまでそのいろとなりぬる　花山院
新千載春上　せきこえてみしとも思ひわすれ神の　ちかひありてや人へかへりし　前大僧正慈円
千載雑上　かへりもぞ来ぬ人をしるべせよ　やまぢの雪の消えぬまに　源俊頼朝臣
拾遺別　ゆくすゑの雲の絶間をながめても　おもひ残さぬ別路ぞうき　藤原為頼
後拾遺雑中　きぬぐぬを思ひこそやれ旅衣　なれてすごせる月のかげかな　大納言経信
新拾遺雑上　なにはがた袖こそ波のよるべなれ　あまの苫屋の月をながめて　藤原家隆朝臣
後拾遺雑二　あまの住むかたをかすめる夕霞　いくへのうらに立へだつらん　大納言経信
新勅撰雑二　かりそめの旅寝の袖のよるの雨に　ぬれてやひとり月をながめん　藤原定家朝臣
拾遺集雑上　ながめやる袖のしがらみせきかねて　なみだぞ川の水まさりける　源重之
拾玉集一　ながめつる袖のしがらみせきかねて　なみだぞ川の水まさりける　津守国助
後拾遺雑一　あまの住むかたをかすめる夕霞　いくへのうらに立へだつらん　大納言経信
拾玉集四　ながめやる袖のしがらみせきかねて　なみだぞ川の水まさりける　津守国助
同三　ながめつつ思ふにしるし我袖の　なみだまでそのいろとなりぬる　花山院
新勅撰雑二　かりそめの旅寝の袖のよるの雨に　ぬれてやひとり月をながめん　藤原定家朝臣
拾遺集雑上　ながめやる袖のしがらみせきかねて　なみだぞ川の水まさりける　源重之

大和物語　わらうとへいやだるんを思事の　なるもあるもさるものさはるもの
後古今雑上　なぐさめて衣をとりてぬぎかへて　山さとにもるる雲の村雨　後伏見院
拾玉集二　みちのくの衣の関うちこえぬ　めずらしきかな二つ世の月　津守国助
後古今二　山水の集下　なるもあるもさるものさはるもの
後千載三　もろともにながめつるかな二つ世の　月はかはれど秋の夜の月　後伏見院
新拾遺秋上　なるもあるもさるものさはるもの
新拾遺二　今ぞしれ恋ぢの末のなぐさめも　なるもあるもさるものさはるもの　津守国助
後拾遺秋上　秋風のふくにまかせてやまがつの　なるもあるもさるものさはるもの
後千載三　もろともにながめつるかな二つ世の　月はかはれど秋の夜の月　後伏見院
新勅撰雑二　かりそめの旅寝の袖のよるの雨に　ぬれてやひとり月をながめん　藤原定家朝臣
新古今雑上　浦風や吹よりあみのうすごろも　ちぢにおもひをくだくころかな　大納言経信
後拾遺秋上　秋風のふくにまかせてやまがつの　なるもあるもさるものさはるもの
後千載三　もろともにながめつるかな二つ世の　月はかはれど秋の夜の月　後伏見院
新勅撰雑二　かりそめの旅寝の袖のよるの雨に　ぬれてやひとり月をながめん　藤原定家朝臣

新後古秋上　なみぢこえて暗の天乃川
新千載秋下　秋風のやどりの稲もしのぶべし
新後拾雑下　思ひこし浦みし秋の梯風
新後撰雑中　あまのとまやもなほ秋の風
新後拾雑秋　神の上の秋をへつつもりくる
新後撰雑春　ふるもしてこぬ秋もなりけり
新千載雑秋　もりかねもなほ秋の名残哉
新千載雑春　老ぬるもなのめなりとや思ふらん
新千載雑秋　光る紅葉ぞ秋の月
同雑上　なるる雲やあるぬ月かな
同秋上　露やそふ何のまつ虫
拾遺愚抄　なるるよもうき秋の夜
墓ノ　なるるそなくくまれ鳥
山家集上　天の原さやけき秋の月

秋上　なみぢこえて暗の天乃川
長秋詠藻　秋風のやどりの稲もしのぶべし
山家集下　秋ふかき霧のまがきの下紅葉
なほ我宿の一むら薄
拾玉集又　今ぞそよぐ秋の初風
残古春上　白妙の衣ほすてふ天の香具山
同又　夏衣秋下
新勅撰秋下　夫河ぞそふ秋の名残
玉葉秋上　人まつとあかすも久方の
同雑又　うらむるものぞ秋の夜の月
新古今　月清集上　神さびわたる榊葉に
拾玉集七　あめのみ我ぞ祈りそへける
残古冬　拾玉集七　月見れば秋の風
新千載秋上　雅あるさまの月夜哉
残古秋上　なみぢこえて暗の天乃川
なみぢこえて暗の天乃川　宗純書写本
なみぢこえて暗の天乃川　大ひら寺秀
なみぢこえて暗の天乃川　法守定国
なみぢこえて暗の天乃川　為家
なみぢこえて暗の天乃川　為氏
なみぢこえて暗の天乃川　為世
なみぢこえて暗の天乃川　為相
なみぢこえて暗の天乃川　為定
なみぢこえて暗の天乃川　為忠
なみぢこえて暗の天乃川　為明
なみぢこえて暗の天乃川　為藤
なみぢこえて暗の天乃川　為重
なみぢこえて暗の天乃川　為秀
なみぢこえて暗の天乃川　為守
なみぢこえて暗の天乃川　為定
なみぢこえて暗の天乃川　為忠
なみぢこえて暗の天乃川　為明
なみぢこえて暗の天乃川　為藤
なみぢこえて暗の天乃川　為重
なみぢこえて暗の天乃川　為秀
なみぢこえて暗の天乃川　為守
なみぢこえて暗の天乃川　為定
なみぢこえて暗の天乃川　為忠
なみぢこえて暗の天乃川　為明
なみぢこえて暗の天乃川　為藤
なみぢこえて暗の天乃川　為重
なみぢこえて暗の天乃川　為秀
なみぢこえて暗の天乃川　為守
なみぢこえて暗の天乃川　為定
なみぢこえて暗の天乃川　為忠
なみぢこえて暗の天乃川　為明
なみぢこえて暗の天乃川　為藤
なみぢこえて暗の天乃川　為重
なみぢこえて暗の天乃川　為秀
なみぢこえて暗の天乃川　為守

秋風よ花をうつすな我宿の
萩の下葉を見む人のため　前大納言忠教卿
玉葉巻四　後二位成實
猿衣三　新拾遺巻四
金葉秋　拾遺集秋下
拾遺集秋下　後拾遺雑下
後拾遺雑下　後拾遺雑二
新勅撰秋下　新勅撰秋下
新古今巻一　後古今巻二
後古今巻二　後古今巻一
後古今巻一　後古今巻一
新拾遺雑上　新拾遺雑上
玉葉巻二　玉葉巻二
後古今巻一　後古今巻一
拾玉集三　後拾遺雑下
後拾遺巻一　後拾遺雑下
古今巻一　古今巻一
同　同
後撰巻四　後撰巻四
新古今巻四　新古今巻四
後拾遺雑下　後拾遺雑下
風雅巻三　風雅巻三
後拾遺雑下　後拾遺雑下
新古今巻四　新古今巻四
金葉巻二　金葉巻二
後拾遺雑一　後拾遺雑一
新葉巻二　新葉巻二

秋風よ花をうつすな我宿の
萩の下葉を見む人のため　前大納言忠教卿
玉葉巻四　後二位成實
猿衣三　新拾遺巻四
金葉秋　拾遺集秋下
拾遺集秋下　後拾遺雑下
後拾遺雑下　後拾遺雑二
新勅撰秋下　新勅撰秋下
新古今巻一　後古今巻二
後古今巻二　後古今巻一
後古今巻一　後古今巻一
新拾遺雑上　新拾遺雑上
玉葉巻二　玉葉巻二
後古今巻一　後古今巻一
拾玉集三　後拾遺雑下
後拾遺巻一　後拾遺雑下
古今巻一　古今巻一
同　同
後撰巻四　後撰巻四
新古今巻四　新古今巻四
後拾遺雑下　後拾遺雑下
風雅巻三　風雅巻三
後拾遺雑下　後拾遺雑下
新古今巻四　新古今巻四
金葉巻二　金葉巻二
後拾遺雑一　後拾遺雑一
新葉巻二　新葉巻二

新勅恋五　人まつは木葉ふりしくえだにおとなみだの色もかはりゆくらん　按察使公通

後拾遺哀傷　いかにせんなみだのかはにしづみつゝ　源信宗朝臣

新古哀傷　みし人のなきかずそふる秋のねざめを　権中納言通俊

千載恋二　我袖のしほれ衣手よなみだのよそにみえねども　従三位頼政

続千恋一　恋しさになみだのたまのみだれつゝ　よみ人しらず

新千恋二　くりかへしつゝ年のなみだのとまらぬは　平経正朝臣

玉葉恋五　衣手をぬれてもかはくなみだのめぐりあふ日はなきを　後法性寺入道前関白

新古雑上　老ぬともなみだの玉もあらんと　皇太后宮大夫俊成

続後撰羇旅　消かへり露の命をなみだにて　成尋法師母

古今哀傷　なき人のなみだのなかにちらぬなる　たゞみね

拾遺雑秋　よそにみてなみだのたまのそでにかゝりて　よみ人しらず

同哀傷　萩が枝のなみだのつゆもおきそめて　同

続拾遺雑三　かくばかりなみだのたまのかずならば　同

続拾雑下　かゝみえてなみだのたまをひろひつゝ　前大納言為家

新勅物名　うきことになみだのかはのそでにかゝりて　伊勢

月清集下　世中をおもひつゞくるなみだのたまにぬる袖　前大僧正

新拾遺別　君がゆく人のなみだのかはのわたり　つらゆき

伊勢物語　わが世をばけふかあすかとまつかひのなみだのたきといづれたかけん

新古雑中　我世をばけふかあすかと待かひのなみだのたきといづれたかけん　中納言行平

新勅雑三　袖にかゝるなみだのたまのかぎりなき　左大臣長良

千載恋五　恋わぶるなみだのかはにしづむとも　右大将家房

新勅恋四　あふことはなみだのつゆもとまらぬに　二条院讃岐

新拾哀傷　なき人のなみだの袖にかゝりけり　法眼源兼

続拾哀傷　なみだのかはのふかきにもまた　九条左大臣女

月清集上　あはれてもなみだのたまのかずそへて　前山僧正

新古雑上　独ぬる夜のなみだのつゆのおきどころ　同

同恋五　露ばかりなみだのかはのふかきせに　冷泉前太政大臣

風雅恋三　何ゆゑの人のなみだのかゝりけん　皇太后宮大夫俊成

玉葉雑四　秋の夜の風のなみだのたまのをも　経乗法師

続後撰雑上　ことのはのなみだのつゆもおきそへて　紀武郷

新千雑別　旅の人のなみだのつゆにそでぬれて　宣政門院

同雑中　今はとてなみだのかはのわかるれば　光孝天皇御製

新古恋五　君やとふなみだのつゆもおきそへて　参議雅経

新勅秋上　花すゝきなみだのつゆもおきそへて　権中納言

新古恋　秋ふかきなみだのつゆのおきどころ　静賢

拾玉集五　のりのみちなみだのつゆもかゝりけり

新千載恋三　[illegible]　元可法師
続古今恋五　[illegible]　小町
金葉恋上　[illegible]　神祇伯顕仲
[illegible]恋一　[illegible]　[illegible]
新千恋一　[illegible]　忠義公
同恋二　[illegible]　中[illegible]
新勅冬　[illegible]　在原元方
新勅冬　[illegible]　赤染衛門
拾玉集四　[illegible]　同
新古今夏　[illegible]　[illegible]
同雑上　[illegible]　上西門院兵衛
風雅恋三　[illegible]　[illegible]
同雑下　[illegible]　[illegible]
山家集下　[illegible]　[illegible]
続撰雑別　[illegible]　[illegible]明親王
続千哀傷　[illegible]　[illegible]
新拾遺哀傷　[illegible]　[illegible]
新拾遺哀傷　[illegible]　[illegible]

新勅雑三　[illegible]　東二条入道前太政大臣
続古今反数　[illegible]　[illegible]上人
桂柱　[illegible]　[illegible]
拾遺哀傷　[illegible]　大納言朝光
古今恋二　[illegible]　清原深養父
続古今恋二　[illegible]　紀貫之
同恋一　[illegible]　坂上是則
新勅恋五　[illegible]　崇徳院御製
千載恋一　[illegible]　従三位頼政
続古今秋下　[illegible]　静仁法親王
壬生二見上　[illegible]　[illegible]
玉葉雑五　[illegible]　[illegible]
続古今恋三　[illegible]　同
新続古恋三　[illegible]　式乾門院御匣
新葉雑上　[illegible]　中務卿宗良親王
新続古今恋四　[illegible]　源[illegible]朝臣
拾玉集三　[illegible]
新葉秋下　[illegible]　[illegible]

山部集下　君をこふるのうらいたつらなきそ
船擢歌一　あをうなばらおきへこぎでよ
壬生二年　もろともにたかしの浜の松の葉の
殘集拾遺　いつかちとせをわれもへぬべき
拾玉集三　掬ぶ手のしづくにやどる月かげの
若狭　あるかなきかの秋の風
山家集上　さらぬだに秋の物思ふ我宿に
同　ひとりぬる夜の袖さへ露けきに
新葉集雜　うき世にはあらしの山の秋風に
下　もみぢの錦きる人もがな
新拾遺雜　衣手も秋はうすくや成ぬらん
秋古歌一　我も人もまだせく庵の
殘拾遺秋　ふるさとの秋はいかにと問ふ人に
新古今一　いかが答へん袖の露かな
新勅撰雜　世の中をいとふまでこそかたからめ
一　かりのすみかをいづる山風
壬生二年　風吹けばおちかたになる月の
十冬歌三　木ずゑにかかる雲ぞのこれる
拾玉集一　月清集上　秋ふかき
山家集下　ひさぎおちそふ庭の面を
拾遺雜秋　ふきはらふ風のあとさへ
壬生二年　あるものを誰かはかなき
月清集上　雲ぢより海風もまだ
殘拾遺第　雲ぢ吹上の浜風に
十冬歌　なみのはなさへ
山家集下　山ぢより海の面をこえそめて

新古秋上　　よみ人しらず
山家集上　　なつの夜の月かげさやかなれば
拾遺雑春　　なかなかに人をも身をもうらみじ
後撰雑四　　あふことは玉の緒よりみじかくて
同中　　なつの夜の月かげさやかなれば
拾遺雑春　　なかなかに人をも身をもうらみじ
新古秋下　　秋やまと吹きこす風のいかなれば
風雅雑上　　春風のいたりしところ咲きそめて
拾遺春上　　今日のみやこ人もこそ見れ
同中　　なつの夜の月かげさやかなれば
後撰羇旅　　なかなかに人をも身をもうらみじ
俳諧歌　　名にしおはばあふさか山をこえねとや
山家集上　　秋風のいたりしところ咲きそめて
古今雑上　　春風のいたりしところ咲きそめて
万葉雑上　　春雨のふりしく時の青柳の
金葉雑上　　春風のいたりしところ咲きそめて
千載雑上　　春風のいたりしところ咲きそめて
金葉秋　　秋風のいたりしところ咲きそめて
新拾雑中　　秋風のいたりしところ咲きそめて
山家集下　　月ゆえにやどりし袖の露ならば
後撰雑一　　夏衣かたしく袖の露ならば
新古雑一　　秋風のいたりしところ咲きそめて
後撰雑一　　秋風のいたりしところ咲きそめて
金葉雑上　　秋風のいたりしところ咲きそめて
後撰雑一　　秋風のいたりしところ咲きそめて
拾玉集一　　秋風のいたりしところ咲きそめて
金葉雑上　　秋風のいたりしところ咲きそめて
新後撰雑上　　秋風のいたりしところ咲きそめて
山家集上　　秋風のいたりしところ咲きそめて
新古冬　　秋風のいたりしところ咲きそめて

拾遺春上　　秋風のいたりしところ咲きそめて
後撰雑四　　秋風のいたりしところ咲きそめて
同中　　秋風のいたりしところ咲きそめて
金葉秋　　秋風のいたりしところ咲きそめて
新拾雑中　　秋風のいたりしところ咲きそめて
山家集下　　秋風のいたりしところ咲きそめて
後撰雑一　　秋風のいたりしところ咲きそめて
新古雑一　　秋風のいたりしところ咲きそめて
後撰雑一　　秋風のいたりしところ咲きそめて
金葉雑上　　秋風のいたりしところ咲きそめて
新後撰雑上　　秋風のいたりしところ咲きそめて
山家集上　　秋風のいたりしところ咲きそめて
新古冬　　秋風のいたりしところ咲きそめて

壬生二上　山川の木の葉吹しく淀にしも　流れそこなふ岩ねなりけり
月清集上　もみぢ葉のちりしく水の上を　流れて月は宿りける也　
続古雑中　水の面にうかぶもみぢやたえだえに　流れつゝ今やはなれてかへるらん　凡河内躬恒
新後拾遺下　水の面に咲ける桜を風吹けば　流れつゝ今も渡る花はちる　紀貫之
拾玉集三　きよみの月の光も氷りけり　流れ上にもあれるさゞ波
新拾遺羈旅　思ひ出る人をみるめの海士の舟　流れゆきもあれぬやかてぞ　権大納言長基
同　なにはえの芦の下葉に朽ち果てて　流れより残るも涙なりけり　進子内親王
新続古冬　みなかみに吹き下ろす山風や　流れもあへず氷るらん　後花園院御製
山家集上　難波潟月の光に汐みちて　流れもそゝぐ氷となりにけり
新古冬　水上の岩ねのよどみ淀の川　流れもまたで氷しつゝも　河内
続千載羈旅　浦づたふ舟路の末に吹く風の　流れもまさる汐のかぜかな　藤原秀賢
新千載羈旅　うき旅の夜の枕の風寒く　流れもまさる月の影かな　前大僧正慈信
新古今　淀川の岸の山吹咲きにけり　流れもつきぬ春の色かな　権中納言公経
拾玉集四　旅の空まどろむ夢も結ばれず　流れ物思ふ涙なりけり
続千載羈旅　旅寝して残る枕に浦風や　流れてくだる舟のよるべぞ　大江忠成女
壬生二中　打ちなびき芦のかれ葉に浦風ぞ　流れもおりぬよるべなりけり
新千載二　風さそふ岸の山吹打ちよする　流れもあへず散るぞ寂しき　延政門院新大納言
続撰玄三　あさ氷とけぬる春の山の　流れてゆく水の音ぞ寂しき　冬平のみこのむすめ

新勅撰冬　大井川うかぶ筏のかよひ路も　なかれこゝろよせぬせくらん　入道前太政大臣
続撰玄夏　ながれなん事をも思はで　なかれのこゝろもつばさぬ　よみ人しらず
続古今雑　まつはしくなかれ　なかみのこゆる八重の浪かな　伊勢
拾遺雑上　あはれてふ松の木末もうつろはで　なかれてそまる風もふくらん　忠見
拾玉集一　ちるとも柳の糸をよりかけて　なかれあやなく立田川かな
新拾遺秋下　池水に花のかげさへうつりては　なかれのあやもみだれぬるかな　後法性寺入道前関白太政大臣
古今雑下　あらはれぬ人をも心にかけてこそ　なかみのこゝろの風とこそなれ　兼覧王
後拾雑上　和歌の浦にたちよる波のそのかみも　なかれたえせぬ紀の川の深　前大納言為家
壬生二中　甚むの年もくれぬる千歳の松　なかれ下行く舟にひかれて　―
同上　外の海の八幡をかけて　なかれ下行く煙や八つの川
新古神祇　浦のうき尾上の桜風吹けば　なかれ下ゆくあまの釣舟
新後拾羈旅　住吉の浜松が枝に風ふけば　なかれもゆく舟よするらん　藤原通経
新続古今三　きくの池の水もきれぬ初霜を　なかれの末にのぞむ野べかな　藤原資行
続後拾遺羈旅　いさり火のそれともみえて浦の浪　なかれ絶えせぬ海人のかぢ音　権律師雲禅
金葉二　池水に松の千枝もうつるなり　なかれかくるゝ花の衣手　大納言経信
新古今雑下　岩根こす清滝川のはやき瀬に　なかれかくるゝ水のしらなみ　権中納言国信
新葉冬　みなそこの千鳥も鳴きて寒き夜や　なかれもさらぬ氷とぞなる　後村上院御製
壬生二上　思ふ人海河里あらはれ　なかれてもゆく山の岩が根

新後拾遺上　あさ出る入江のふなはしのくゝと　なくまよのさむ出る夜ふかき　冷泉為相
後拾遺　ありあけの河のへの水こえて　なくまよなかなる一声の秋　侍従雅有
拾玉集一　山のはにかゝるとみえし清見かた　なかまよの月ひかりそ遠き　従三位行家
風雅雑中　漕出る武庫の浦より見渡せは　なかまよの住吉乃松　後恵法師
後拾遺　ちかくなるわかれの渡に風さえて　なかまよのあり明の月　後恵法師
月清集上　ちかき浜松の浦の居の星そ　なかまよにかゝる出れ盃
新古今上　出るかれ霞まよりなきこゑは　なかまはにほのかにあかし嶋山　後恵法師
拾遺愚草　梅ひかへすくもらぬ山さくらも　なかまに浦の方の知る人ぞ　前大僧正慈円
新葉雑中　夕霧の夜山のはてにみちぬれ　なかまよにちかき松の村立　前大僧正慈恵
新拾遺上　浦ちかく月のはつるかた夕霧に　なかまかすみそ塚の戸金　藤原為道朝臣
拾玉集三　くれ乃秋すみのえの池まさて　なかまよの月よなく一つ
同一　鷺の山路の雲の晴れてそ　なかまよの月もあり夜のそれ
拾遺愚一　むかしくもかゝるなかしとそ　なかまもあへるん上見え　よしたゞ
新古雑上　わかれ浦まゐる風さえそれも　あさかくる月のみなり　民部卿範光
拾玉集七　梅乃ちれるるも池まさる風や　ある吹風も移りなん
長秋詠藻下　五月雨ちゝくる稲名にあかて　ちかまそ流れ人にみつ
新後拾遺　白浪風吹くもいかの岩根まさ　なかみをかくれ雲は立ちまし　従三条実重卿
山家集下　あめのめさきたさかひとやかなし　なかみそて奴へきまたはまし

新後拾友　波こも生いかゝの浦にちかう　なかみまぬるん春の朝比　順徳院御製
後拾遺羇旅　露わけき野嶋かきしの篠に　なかみてさゆるも袖ぬれ　後鳥羽院御製
新葉春三　教めつゝ人の立ちすむ表　なかみてさゆるも波きさかしき　後醍醐天皇御製
拾遺愚草上　此のなかまの松山をも清ても　なかみこさしとゆきもやら
長秋詠藻上　うらかる音にたちの松山に　なかみてせちやいかる月
後拾遺雑二　松ひさへしそまつかなくしもなく　なかみこすへしとてく波こ　左京大夫顕輔朝臣
千載雑上　塩みちくる野嶋かさきゆく　ちかみこ渡りせのふかぬにそ　源俊頼朝臣
後千載三　あらせはやこ流れゆくて鏡の　ちかみそそてせしとあれ　為道朝臣
後古今　今はまさ様によりられぬ郎女　なかみこ浪こ一夜もせまし　前大納言為家
壬生二家上　みわたせは志からちからふ竹ふ波で　なかみこすゝみのゝ末の松山
新勅撰下　そり立ま跡よまかりんかき哉　ちかみはりくもあるやうなし
新千載夏　和田原はるてしも行まよ　ちかみさへふゆかくしなかり　中納言定家
新勅撰　桜花ちるの池の波をこれ　ちかみこそ一夜の女世と立ちん　前二条関白家
玉葉雑二　あしたの鳴音もきゝくゆきかり　なかみあれはなき松のしゝ嶋　源俊平
壬生二家中　よその海の霞吹ゆく出る　ちかみもいくかにし志賀の花園
拾玉集四　まおとやりや桜谷りたる　ちかみも花さそうちのあき
後拾秋下　難波潟浦かくもとり月ま　ちかみもくさそぬ浅の海山　前大納言為家
新拾賀　風かよふ松をうつて池まる　ちかみもちゝ近く稲まるかな　藤原為道朝臣

後拾遺　水上もあくみつくあしかも　行尊大僧正
後拾狭衣　みつもりくさ氏の流のあや綾も　藤原為家朝臣
月清集上　神さびぬ月日は幾代すみの江の　藤原定家朝臣
拾遺愚草　紅葉ちる秋の夕風とふれども　藤原為家朝臣
後拾後拾　年こえ雨河の瀬々の川つなみ　藤原為家朝臣
新古今　和光同塵のしるしあればかも　藤原為家朝臣
後拾擬雑　みるめ刈る海人の袖こそ白浪の　藤原為家朝臣
続古今雑上　わくら葉も時雨ふりしく秋の色を　藤原為家朝臣
玉葉雑三　しらなみもみどりにそめぬ春の色を　藤原為家朝臣
夫木和歌抄　かすみたちこのしたつゆをかぜはらふ　藤原為家朝臣
古今雑上　ふるさとは春の霞のへだてにも　藤原為家朝臣
風雅雑上　たちそめて一つ色にやかすむらん　藤原為家朝臣
大和物語　いつしかと待ちし君をうぐひすの　藤原為家朝臣
金葉冬　まだ木葉ふる山陰のそれだにも　藤原為家朝臣

新後拾一　ちぢの秋ふりにし袖をかたしきて　藤原為家朝臣
後拾擬雑　あまのすむ浦の松原ふきわたる　藤原為家朝臣
新古今一　ちぢの秋ふりにし袖をかたしきて　藤原為家朝臣
同玄二　ちぢの秋ふりにし袖をかたしきて　藤原為家朝臣
玉葉玄一　ちぢの秋ふりにし袖をかたしきて　藤原為家朝臣
新葉玄二　ちぢの秋ふりにし袖をかたしきて　藤原為家朝臣
新後拾秋　ちぢの秋ふりにし袖をかたしきて　藤原為家朝臣
新後古夏　ちぢの秋ふりにし袖をかたしきて　藤原為家朝臣
玉葉秋下　ちぢの秋ふりにし袖をかたしきて　藤原為家朝臣
拾遺愚草　ちぢの秋ふりにし袖をかたしきて　藤原為家朝臣
金葉玄二　ちぢの秋ふりにし袖をかたしきて　藤原為家朝臣
新後拾玄二　ちぢの秋ふりにし袖をかたしきて　藤原為家朝臣
拾玉集夏　ちぢの秋ふりにし袖をかたしきて　藤原為家朝臣
新後古夏　ちぢの秋ふりにし袖をかたしきて　藤原為家朝臣
後拾冬　ちぢの秋ふりにし袖をかたしきて　藤原為家朝臣
新後拾秋上　ちぢの秋ふりにし袖をかたしきて　藤原為家朝臣
風雅冬　ちぢの秋ふりにし袖をかたしきて　藤原為家朝臣

同
山家集上
玉葉集
新拾遺
大和物語
拾遺愚抄
風雅春中
新拾秋下
新千載三
金葉秋
新拾遺一
山家集下
新後古後
後古雑下
新千雑上
拾玉集七
新葉雑上